



No.27 2008.6.26 発行
 群馬県立高崎高等学校 翠巒体育会報
<http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/>
 E-mail suiran-taiikukai@apost.plala.or.jp



緊急企画
 鼎談

がんばれラグビー部、応援部

「ラグビー部と応援部が危ない!なんとかせねば」——「翠巒体育第27号」第1回編集会議に集まった編集委員をぐるりと見回しながら、高橋浩生会長はテーブルを叩いた。近年のスポーツの多様化、商業化の波の中で、わが国のラグビー人口は減少の一途をたどっている。アマチュアリズムが影をひそめると歩調を合わせて応援部の部員も危機的な状況だという。わが高も例外ではない。「伝統ある両部にスポットライトをあて、現役生にエールを送る企画をやろう」というのである。

言われてみれば、かつて高生生の体操着はラグビージャージだった。1年間の体育の授業の半分はラグビー。“タックルで相手を倒す”という格闘性と、“ボールを前に投げてはならない”などの奇怪なルールに妙に魅せられて、どちらに跳ねるかわからない楕円のボールを追い回したものだ。

そのラグビージャージが、千人超の規模で躍動するのが定期戦である。一般の部のラグビーこそなかったが、紫紺の地に胸に白の2本線のジャージ軍団は、騎馬戦でも、綱引きでも、他の競技でも、しばしば前高を圧倒した。そして、わが高の団結を固め、士気を鼓舞する先頭には、いつも応援部の野太い声と統率のとれた指揮があった。そのもとで歌った校歌は、翠巒は、我々の心に染みわたった。

考えてみれば、我々を高生生たらしめ、母校への愛着と誇りを培うのにラグビーと応援は欠かせなかったのではなからうか。そういう点で、ラグビー部、応援部は、高生数の数ある伝統のクラブの中心に位置しているのかもしれない。

その伝統ある両部が危機だという。我々編集部は急遽、秋山賢治応援部OB会長(74期)、内田美樹ラグビー部OB会長(77期)において願い、高橋会長との鼎談をおこなった次第である。以下、その概要を記す。

「伝統の継承に翳り」

高橋: 本日はお忙しい中、両部のOB会長にはお出でいただき、ありがとうございます。

ラグビー部・応援部の危機に際し、両部の伝統を継承してもらうため、翠巒体育会として何ができるだろうかと考えたとき、現役生に直に訴えるしかないと思ひ、今回の鼎談の機会を設け、かつ、今回の会報誌を現役生全員に配布することになりました。

110周年記念事業で講演していただいた「国家の品格」の著者藤原正彦氏が言った「私は、伝統校が大好きである。」という言葉が私の耳に妙に残っております。伝統とは、壊したり、失ったりすることは、容易いが、これを築き上げるには途方も無い時間と労力を必要とします。また、運や天が味方してくれないと築き上げら

れないものかもしれません。私は、藤原氏が高生生に想い描いて下さったように、伝統校である高生の現役生を信じます。高生生ならば、今回の鼎談と特集の主旨を理解し、我々OBの熱き思いに意気と男気を感じ、必ずや高生ラグビー部と応援部の伝統を継承してくれると信じているのです。

では、さっそく両部の現状からお話しただきたいと思ひます。

内田: ラグビーという競技は、大人数のゲームです。本当なら、リザーブも含めて20人は最低ほしいのですが、現在部員は19人。3年生が7人、2年生が4人、新1年生が8人という状況です。8人の新入生というのはありがたかったのですが、すぐに試合というわけにもいかなないので、本年の高校総体では7人制の方に出場して優勝はしましたが、完全燃焼というわけにはいきませんでした。

そんなわけで今年も3年生が何とか秋の花園の予選まで頑張るということです。

受験が控えているので、3年生は夏を区切りに引退というのが多いのですが、ここ数年は、全員が秋まで頑張ってくれています。保護者会も生徒達が自ら考え、強い意志をもって取り組んでいる姿に心を打たれ、「何とか花園までやらせたい」とみなさんおっしゃってくれています。我々OB会も応援せずにいられません。

ただ、来年のことを考えれば、3年生が抜ければ12人で、新入生が入ったとしても、いきなりゲームというわけにはいきませんから、今年と同様に高校総体は難しいですね。

高橋: 全国制覇2度のラグビー部が高校総体に出られないというのは、私からすると信じられない事態です。また、読者のOBの方々も同様であると思ひます。応援部はいかがですか。

秋山：先日の翠巒祭で恒例のリーダー公開祭を開催しましたが、3年が2人、2年が2人、1年が1人という状況です。太鼓の方は、最近は和太鼓部というのがあって、そちらに助けてもらっているようですね。私の現役時代も3年生が8人いて2年生は1人で、1年は私を含めて2人。翠巒祭が終わって夏にはいきなり「副団長」という時期もあったのですが、それでも野球の応援の時期前後から部員も増えてきて、全体として平均すると各学年4～5人はいた勘定になります。そういう点では、いまは寂しいですね。今回、「翠巒体育」誌上で、このような企画をたてていただいたことに、感謝している次第です。

今は、現役は、ある程度やりやすい立場にいます。顧問の川崎先生(79期)は高高OBで非常によく面倒みてもらっているし、めぐまれている。し

芸能」というところもあってそれぞれの曲のリーダーや振り付けを、身体で継承していかなければならない。伝統校としてのそういうところを守ってほしいと思っています。

高橋：大学に女性の応援団長が出てくる世情だけれど、わが高高にとっては応援部は“男気”“男らしさ”の集約です。高高的応援部は、男の中の男、そこにあり続けてもらいたいものです。

ところで、両部が愛され、他の学生から一目置かれていたのはその伝統にありますが、それぞれ端的に紹介してください。

「伝統はこうして創られた」

内田：ラグビー部は、敗戦直後の昭和21年に、母校の生徒らの無気力ぶり、退廃ぶりを見かねた眼科医の高草木喬先生(14期)が、何か生徒らを熱中させるものがないかと思いついたのがラグ

らったこともあったということです。その後も県内では負け知らずで、県内101連勝の記録が残っています。

高橋：高高80期代の中頃までは不動の県下一だったと記憶しています。

内田：そうですね、しかし全国からは遠ざかってしまいました。1975年に、中原射鹿止先生(55期)が高高に赴任して、そこでまた盛り返しました。1982年・1984年には久々に花園へ出場しています。

高橋：花園も、今の予選のシステム(一県一校)なら数十回出場していたでしょうね。

内田：はいそうだったかもしれませんが。また、高高ラグビーは高校だけじゃなくて、大学や社会人、全日本の選手も輩出していますし、現在の財団法人日本ラグビーフットボール協会の真下昇専務理事(56期)は高高的OBです。日本全体のラグビーにも貢献してきたのです。

秋山：応援部は、昭和25年当時、下田茂夫氏(50期)が、当時、早稲田に行っていた福田正一氏(46期)に指導を受けてスタートしました。今でも顧問として来ていただいておりますが、そういう経過もあって、高高的応援は早稲田カラー、そして慶応や明治の影響を昔から強く受けていたのではないかと思います。

先程も触れた翠巒祭のリーダー公開祭というのは、一般の人にはなかなか理解しにくいところがあると思いますが、ようするに「校歌」「応援歌」をはじめとし、応援にはこういう型がありますっていうのを、1時間なり1時間半のなかで全部披露する儀式です。この様な事を毎年実施しているのは、高校ではあり得ないことなのです。高経や群大でも、毎年リーダー公開祭を実施していますが、それは他の大学の応援団を招いて来て、両校の掛け合いのような型でやっている。単独の高校で毎年実施しているのはとても珍しい存在なのです。

それと特筆しなくちゃならないのが前高との定期戦の存在。会場を変えながら、毎年毎年、応援合戦をくりひろげて戦いを盛り上げてきた。これが応援部の存在も、伝統も磨いてくれたと思っています。

高橋：なるほど定期戦の存在ですか。

ラグビー部OB会長(77期) 内田美樹



かし、応援部に対するイメージというか、風潮もあるだろうし学生の考え方、気質も変わってきているところもあるでしょうから、そういう意味でいろいろと新しいことをやってゆこうとしているようです。

しかし、「翠巒」にしてもリーダーがいてサブがいてバックがいて、それぞれの役割があり、担当するパートが違うのが理想的なのです。また、野球の応援だったら、一列目がいて中段がいて、太鼓とか旗手がどこにいるか、という配置も考えなくちゃいけないのだけれど、「全体で5人しかいません」という世界ではそれもできない。翠巒なんかも、今はサブリーダーはいない、できない、という状況です。応援部は、ある意味「伝統

ビーだったといえます。当時の内藤由己男校長、富田俊一先生らと語らって、いわゆる“ワル”といわれていた連中を集めてはじめたそうです。翌22年には、明治大学でラグビーをしていた岡田由重氏(後の高高教諭)が高崎の会社に就職したところを頼み込んでコーチを引き受けていただいています。

その指導のかがあって昭和28年の第8回国体で優勝、第10回国体でも優勝、同年の全国大会(当時は花園ではなく西ノ宮)でベスト4という成績を残しました。ジャージの胸の2本の白線は、全国制覇2度のしるしです。ただ、当時は人数はギリギリだったようで、予選では柔道部員や陸上部員に加わっても

ラグビー部OB(81期)
総合建設業・一級建築士事務所
大木産業株式会社
専務取締役 大河原 賢二
高崎市京目町197 TEL 027-352-6611

衣料一筋一世紀
本店 HONTAKA
〒370-0827 群馬県高崎市市町49
TEL:027-323-4821 FAX:027-326-3533
ホームページ <http://hontaka.com>

ラグビー部OB(62期)
AND 安藤株式会社
代表取締役社長 森山 昭治
高崎市小八木町309 TEL 027-362-1110

秋山：変な話しかけど、前高の松本が甲子園で完全試合をしたときに、ライバル校である我々が前高の校歌と一緒に歌えた。他校の校歌が歌えるなんて世の中にそういないでしょう。両校生徒の多くは歌える。これは良いことで、これこそ伝統に感謝ですね。

野球でも、定期戦でもそうですが、最初に相手側に挨拶に行き、相手の団長とは相当突っ張りこしても、意思の疎通をしていないとまずい部分があったりして。なんていうか、人と人の交渉みたいなのが応援部にはあつたりするのですね。

いま、応援っていうとイコール、サポーターっていうような理解もあるけれど、たとえばサポーターであっても、いざ声を合わせるとなるとリーダーが必要でしょう。「セーの」ってやる役目がある。そういう意味で、応援部というのはリーダーの養成なのだろうなって思うのですよ。

高橋：応援部の「魅力」ということですね。

「魅力をかがやかせて」

秋山：全体を統率するというのは、ある意味、才能と訓練なのです。千人超をリードするには、人から見て恥ずかしいことしてはついてきてくれないわけで、自己研鑽が大切だから、普段は結構ストイックにやっている。

応援団は、うっとうしい上下関係や暴力という野蛮な暗い部分がクローズアップされてしまって負のイメージが先行しがちだけれど、高高の応援部は、以前は新聞部や生徒会と同室で、そこから部に入って来た人が、大学や社会において強いリーダーシップをとることが多々あり、いわゆる野蛮な部分とは一線を画しているのです。だから在校中も、卒業しても、一目置かれていると自負できる。これは素晴らしい人生の糧ですね。

高橋：千人、二千人を統率する力というのは、社会に出ても力になるでしょうね。

秋山：私事ですが、ここ数年、高経大を会場にお借りして国家試験の責任者を務めています。最初の年、学生課にお願いした30人ほどの学生アルバイトは、まとまりが無く指示されたこともなかなかできず大変でした。翌年からは、全学

応援団のリーダー部と吹奏楽部に頼んだら、この男女の学生はすごく統率がとれていて、動きも機敏で礼儀正しく頼もしかった。いい意味でのリーダーシップを理解している。応援部というところは、そういう研鑽の場でもあると思うんです。

高橋：まさに今の若者にもっと培ってもらいたい部分ですね。ラグビー部も魅力いっぱいだと思います。

内田：ラグビーはよく“ノーサイドの精神”“One for All. All for One”というような言葉で形容されますが、これは高高の3F精神(Fighting spirit, Fair play, Friendship)と強く響き合っていると思います。

グラウンドでは、それこそ必殺の敢闘精神でゲームに臨むけれど、試合が終わればノーサイドの精神で友情をあたため合う。身体と身体が激しくぶつかり合う競技だから、その分お互いを知る、尊

一ムの一員になれます。

高橋：なるほど、3F精神と響き合ったことも輝かしい伝統をつくった一因といえますね。ところでラグビー部は、OB会としても活性化の努力をされていると聞いています。

「OBも知恵を出して」

内田：ラグビーの楽しさ、良さを現役生にも引き継いでゆきたい、現役時代だけじゃなくOBになっても楽しめるんだ、ということで今年の3月29日に「第1回高高ラグビー祭」というのを開催しました。

対戦チームを呼んで、ゲームをした後はバーベキューをしたんですが、OBが80数名、現役が10数名、現役の父母、それから相手チームを含めて140人近くが来まして、おおいに楽しみました。ぜひ来年以降もやりたいと思っています。



応援部OB会長(74期)
秋山賢治

敬し合う気持ちになるんだと思うんです。実際に、相手チームと一番仲良くなるのがフォワードのフロントローの3人なんですよ。

これは30年近く前のフランス代表チームのキャプテンの言った言葉なんですけど、「ラグビーは少年をいちはやく男にする。そして男に少年の心を永遠に抱かせるスポーツだ」というんです。まさにラグビーをよく表現した言葉だと感じています。

また、だれにでもできるスポーツです。15のポジションがあり、それぞれ役割が違います。体が小さくても適したポジションがありますし、運動能力がなくても考えてプレーすることが身につけばチ

そこで感じたのは、OB会の総会の担当になるのが35歳の年で、それまでは卒業後にOBとして自覚するのは、たまに合宿に来るくらいで機会が少なかった。こうした企画をすることで、現役とのつながりも深まるし、卒業後も楽しめる。ゲームだけではなく、ノーサイドの精神そのものの、試合後の楽しみもある。

OBのなかで魚屋をやっている者がいるんですが、それが何万円もする魚介類をもってきて振る舞ってくれたりして盛り上がったし、それから特筆なのは、私自身は直接の面識がなかったのですが、先ほど紹介したラグビー協会の真下さんに連絡したところ、当日に大きな段ボールが届きまして、中には日本代表のジャ

硬式テニス部OB(84期)

山口正仁

オーダーメイドの生命保険をお届けしています!
ブルデンシャル生命保険株式会社 町田支社
TEL 042-710-2471 携帯090-9309-9492

硬式テニス部OB(83期)

長谷川酒店

焼酎・ワインetc.各種取り揃えております。
長谷川 泰三
高崎市栄町20-1 TEL 027-323-2505

硬式テニス部OB(91期)

原 寛

カネト水産 つりばり・虹鱈料理・手打ちそば
高崎市倉沢町川浦3900-156 TEL.027-378-3132
ホームページ <http://www8.wind.ne.jp/wakaba/>

ージやウインドブレーカーなどがごっそり入ってしまっていて、そのご配慮にぐっと来ました。オークションやりまして、これも大変盛り上がりました。

何回か続けないと根付かないと思いますが、現役とOB、OB同士を結びつける大切な機会として、こういう楽しみがこれからも待っているんだということを伝えてゆきたいと思います。

高橋：素晴らしい取り組みですね。現役時代の、それこそ身体ぶつかり合いを通した、友との結びつきを世代を超えて広げようということですね。応援部ではOB会として工夫していることはあるんでしょうか。

秋山：我々の方は、全体同窓会^(注)の新年会でリーダーを任されているので、当

時代とともに変化するものだけど、元もとの応援の型をDVDで残しておこうとか、たとえば農二の“ダイコン踊り”のように、高高オリジナルを継承して行くじゃないかと考えています。

野球の応援なんかも、現在は他校も応援部は少ないですから、生徒会や野球部主導で、どこの学校も同じになっている。どちらの側も「狙い撃ち」の後は「アッコちゃん」、甲子園見ていると全然個性がない。やはり高高らしいっぽい応援というのを、現役に継承し、作り出してもらいたい。今年は、プラスバンド部にもお願いしてオリジナルのコンバットマーチを編曲中とのこと。そんな活動をOB会としても手助けしようと思っております。

で届くのですよ。たくさん現役生に、そういう思いをしてもらいたいと思います。

話しは尽きませんが、時間が迫ってきました。最後に一言ずつ、現役生へのエールをお願いします。

内田：せっかく高高に入ったんだから、ぜひ何かつかんで卒業してほしい。ラグビーはそれにうってつけのスポーツです。だれにでもやれます。今からでもぜひ加わって青春を燃やしてほしい。

秋山：応援というのは、つきつめれば「高高が大好きだ」という気持ちの表現。その気持ちがある奴ならば何年生からでも何月からでも大歓迎です。

高橋：これまでお聞きしたことをまとめると、両部共にあるのは、個人主義を超越した思いやりの精神、統率力、礼儀、愛校心の鍛錬等々であると思われま

す。運動部はどの部もこのような精神を培う要素がありますが、ラグビー部と応援部は特にこの傾向は強いようです。

現在、わが国において、過度な個人主義により様々な弊害が出ています。この弊害を打破するためには、将来のリーダーたる高高生がラグビー部や応援部に入り、全体を見廻せ、かつ、全てのものを思いやれる資質を養って欲しいと考えます。

日本の社会では、体育会系のリーダーの出現が待たれています。特に、実業界では、早急に体育会系の人材が必要とされています。体力的に強いだけでなく、精神が健全で他人を思いやることのできる人を実業界は欲しております。ラグビー部・応援部人口の下降曲線と相反して現実的には両部の卒業生を社会は熱望しているのです。

現在の高高の学力は、全国トップレベルにあります。高高現役生諸君は、この学力に加え、今回特集するラグビー部・応援部をはじめとする高高の運動部に所属して、是非とも将来のリーダーたる資質を更に磨きをかけて真のリーダーになって欲しいと思います。

本日は長時間に渡り、本当にありがとうございました。

内田、秋山：ありがとうございました。

注) 全体同窓会は、卒業後30年目の期が幹事期となり運営・開催される高高同窓会独特のシステムです

高橋浩生

翠巒体育会長(78期)



番期が近づくと自然に集まってくる仕組みになっていて、今は90期くらいまで連絡が取れる状態になっています。その点では幸いです。そこで話題になるのは、応援のあり方の点。高高らしい応援をどう生み出すか、受け継いでゆかか、ということで試行錯誤しています。

新年総会を見ているとわかると思うのですが、高高オリジナルの応援歌だとか行進曲だとか応援の仕方なんかも、年代が上の方は知っていても、下の年代は知らない、歌えないという状況があって、たとえば野球の応援にしても、第2応援歌「敵軍」とか生徒会歌「天行く翼」だとか、生徒手帳には載っているけれども現役は歌えません、という状況です。そういう独自のあり方を生かしてゆく方法はないか、という問題は以前から話し合われているのです。応援の型は、

こころ

「現役生よ 運動部で精神を磨け」

高橋：独創的な応援ですか。期待したいですね。私が春高バレーに出場した時に、あの野太い声の応援が背中を押してくれました。あんな広い体育館の中で高高の応援部の声はちゃんとコートま



創業明治11年
総合建設業・一級建築士事務所
製材・プレカット・アスワッド

ISO-9001
認証取得

株式会社 研屋

常務取締役 清水 正郎 (野球部・75期)

本社/高崎市飯塚町805 TEL 027-361-5095

野球部OB **ハワイウォーター**

小林 均 (77期)

有限会社 小 金

〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町1614
TEL 027-325-4411(代) FAX027-325-4445

野球部(OB会長・62期)

代表取締役社長 **川手 義昭**

群馬小型運送株式会社

高崎市飯塚町1068 TEL 027-362-1000

株式会社 エイテック

高崎市中泉町811 TEL 027-372-8111

青春の絆

特集ラグビー部編

<ラグビー部7期>

KIZUNA

中村 寿男 (53期)

思い出

「青春の絆」の投稿依頼を受け後期高齢層の仲間入り間近の人生に「青春の絆」の何と心にひびく言葉だろうかと思追憶にふける事しばし。

我がラグビー部の伝統と誇りの礎を築いたのは7期の絆であると自画自賛したい。尊敬する1期から6期の諸先輩のしごきと励ましがあつたればこそではあるが、何よりの戦績として第8回国民体育大会（昭和28年四国松山）での全国優勝で高名を全国のラグビーに高らした事である。大学に入ってラグビーを続けた我々の仲間は、新人時代から頭角をあらわしていた。全国から入部してきた他校出身のライバルたちから「群馬県は知らないが、高崎高校は知っている」と言われたとのことだ。まさに名門高ラグビーありの実感を得た事を思い出す。乗附の原で過ごした3年間。授業はさぼっても練習は休まない。練習時間となると皆が顔をそろえランニングに励んでいた。

厳しくも懐かしい合宿の思い出。現

第14回 国体高校ラグビー大会 対興国商業(1959.10.26~30 於東京)



第8回 国体優勝記念 四国大会

役よりも先輩のOBのほうが多く大学で活躍する先輩達のタックルマシン代わりでしごかれ、あの当時は水も飲めず魔法のヤカンを目でみながらハーフタイムの飲みまわしで生き返るおもいをせつなくもなつかしく思い出す。

冬 寒風にさらされつつコンクリートのようなグラウンドの石拾い、観音山の階段登りのダッシュ、早く終わればと思いつつ息切れ切れのランパス、生タックルの痛み、泥まみれのボールを磨き上げるボール磨き、サンドバックのパスワーク等々今にして思えばこのような試練にはげまされたこそその栄冠のエール。

夢に見た花園グラウンドに立てなかつたが2年続けて全国大会出場の決勝戦で相まみえた慶応高校との戦いで秩父宮ラグビー場の芝生にスパイクを印したというメンバーらの何よりの誇りである。秩父宮グラウンドでプレー出来る事はラグビーのステイタスだった。

顧みれば我々7期の仲間の絆の原点は乗附の原の楢円のラグビーボールだ。

楢円のボールの不思議なころがりの魔力に取り付かれた如く心を奮いたたせた勉学と、休みなき練習と、苦しみも、つらさも、喜びも、楽しみも、汗も涙も……乗附の原で生まれたのだ。

何よりの思い出一番は、つらかった思い出のいまだに友との語りによみがえる「合宿」のつらさ。この試練に耐えてこそ栄光があつた。世間でよく言われる「地獄の特訓」だ。そして水の飲めなかつた事だった。今でこそ脱水症にならないようにとウォータータイムといって随時健康飲料などを飲んでいるが我々の頃はハーフタイムでのヤカンの水のガブ飲みだけだった。他にもつらい、苦しい事はさまざまあつたが合宿が終わった時の爽快感、充実感、なし遂げた達成感などなど、より絆の深まりとチームワークの結束となつた。

次の思い出はやはり国体での優勝だ。その道のりは遠かつた。まず関東甲信越で勝ち進まねばならない。勿論県内では全勝無敗で(7期まで県下78連勝)文句の無い勝ちで関東甲信越代表となる。

国体の第一戦は上野丘校と対戦、楽勝し第二戦は名門天理高校だった。この戦いは前半15分思わぬ反則による退場で14名での試合となつた。上州健児の意地とばかり発奮、大いに意気上がり天理を下し勝利した。決勝の第三戦はこれまた北海道の名門北海高校との対戦。タイムアップ直前のトライで待望の国体初優勝の栄冠を得た。

翌日小雨降る高崎駅より市内パレードで学校へ戻り帰校優勝報告をして学校の榮譽に報いたのも喜びだった。

老兵OBのつたないまともらない思い

御宴会、慶弔のお席、同窓会、PTA、趣味のお集まり等に…。

刺身魚仲

取締役社長 羽鳥修司(卓球部・63期)
高崎市九蔵町17 TEL 027-322-2428
FAX 027-326-7070



株式会社 システムハウス

代表取締役 堤 康高(卓球部71期)

群馬県高崎市栄町15-9 きむらビルII 4-B
TEL 027-327-8451 FAX 027-327-8480
URL <http://www.sysh.jp/>

株式会社大陸不動産

代表取締役 山口 正敏
(卓球部・58期)

高崎市宮元町108番地 TEL.027-322-4031

出を書き記したが今なほ群馬惑惑倶楽部のメンバーの一員として仲間の倶楽部会長らと共に海外遠征、関東甲信、県内の試合、練習に参加してラグビーを楽しんでいる。赤パンツ（60歳代）黄パンツ（70歳代）の元気溢れる仲間の意気益々盛んである。

若きOB諸兄共々高高ラグビー部の歴史と伝統の継承を担う現役諸君にエールを送りOB会のさらなる発展を期待したい。

<ラグビー部38期>

KIZUNA

佐藤 則和 (84期)

花園の思い出

私たち三十八期は花園出場という貴重な経験を二度もさせていただき、とても恵まれた年でした。一年の時は先輩方のおかげで連れて行って、「花園とはこんなにすごく、いいものなのか。」と実感した。そして、三年になり、農大二との決勝対決では、試合終了寸前での逆転で優勝し、花園への切符を手にする事ができた。

全国大会での思い出は、二回戦の第一シードの天理戦。天理は国体で優勝しており、玉砕されると思っていた。しかし、この負けてもともとという気持ちから気負いがなくなり、気持ちが楽になった。さらに、前の試合でシード校の国学院久我山が敗れるという波乱が「おれたちも……」と士気を高まらせた。

試合が始まるとさすがは第一シード校。怒とうの攻撃に、とにかく守ることが精

一杯で必死だった。何度もゴール直前まで攻められてはしのぎ、前半、3-0のリードで終わった。勝っているというよりもどうにか守り切ったという気持ちが強かった。そして、自分たちのラグビーができていたことで、もしかしたら勝てるかもしれないと思いはじめた。

後半も半ばまで守り続けたが、終了近くにトライをゆるし、結局、負けた。試合終了後、私は負けたにもかかわらず、勝者のような気持ちだった。そして、天理の選手が敗者のような表情だったのを覚えている。たしかに試合では負けたものの、ここまで善戦するとは思っていなかった。トライもスピードの違いで取られたもので試合内容では勝ったと、もしかしたら勝てたのではないかと思うことさえある。試合後、ロッカールームでみんな号泣した。負けた悔しさより、ここまでできたうれしさと高校時代のラグビー生活が終わった解放感からの涙だったと思う。そして、しばらくすると、解放感と満足感でお祭り騒ぎ。試合の終わったグラウンドにもう一度入り、記念写真やら走り回ったりして管理人の人にあきれられるし、記事にもなってしまうおまけまでついてしまった。

先輩に連れていってもらった花園に自分たちで行き、今度は後輩たちが連れていってくれることを期待している。

<ラグビー部46期>

KIZUNA

菊地 契 (92期)

続けていきたいラグビー

高崎高校ラグビー部の一員であるということには、現役のころから漠然と誇りのようなものを感じていたと思う。そのことをよりはっきりと意識するようになったのは、友人と話をしていたときだった。「オレもラグビー部に入ればよかったな。」野球部に三年間いた彼がそう言った、最初聞いたときは、とても驚いたような覚えがある。彼はたぶん小・中学校と野球を続けてきて、高校に入っても野球を続けたのだと思う。そういう彼にラグビー部の一員であることを羨ましがられるということは、驚きであるとともに、とてもうれしく、誇らしくも思えた。

自分たちの現役時代の成績を振り返ると、秋の県予選で決勝まで進みながら農大二高に大敗したことがまず頭に浮かぶ。しかし準々決勝の前高戦にOBの方や学校の先生たちが応援に来てくれたことや、準決勝の高商戦には学校の友人が顔にペイントをしたりしながら応援してくれたことは、試合に勝ったことに劣らず貴重な思い出となっている。

大学に入っても、体育会とまではいかなくてもサークルでラグビーを続けている者が、自分を含め何人かいる。ラグビーを続けていくことで、高崎高校ラグビー部のころの苦しかったことや、また誇りを忘れずにいられたら、これから先の何かのときにも、乗り越えていくことができると思う。

円陣 (昭和48年 関東大会)

全国大会県代表決定戦 (昭和59年 高崎浜川競技場)



花園へのトライ

秋山土地開発株式会社

代表取締役 秋山 賢治
(応援部OB会 会長 74期)

藤岡市中大塚223番地1 TEL.0274 (24) 3911

「自分らしい、いい就職」を「ふるさとで働く」を応援します。
就活応援団
ぐんま・とちぎ
TEL 027・310・2080 (81期・応援・藤井)

RISE® ライズ総合保険
損害保険・生命保険はお任せ下さい!

富田 和弘
(応援部 85期)

〒370-0044 群馬県高崎市岩押町25-18 TEL 027-322-2364

青春の絆

特集 応援部編

KIZUNA 下田 茂夫 (50期)

応援部発足の頃

昭和24年夏の高校野球大会は、私達に甲子園への夢を持たせてくれた。この大会では当時早大応援部の福田正一先輩(46期)が速成応援団のリードをして下さり、統制のとれた応援は良いものだと思深く、また東京六大学の応援の一端を知る事が出来た。

昭和25年春の前高定期戦を前にして、エール交換の練習をする集会在体育館で行れ、ある人がリードしたが余り上手いかなかった。この時「俺の方がマシかな」(失礼)と一瞬頭をかすめ、自然に全校生徒の前に出て行ってしまった。これが応援部との切れない縁の始まりで、教室に帰って相当に皆に冷やかされた。

6月末頃、数学の小池先生(生徒指導係)に呼ばれて校長室に行った所「応援部をつくったら」と内藤校長から言われ、福田先輩にコーチをして貰う事をお願いして、引き受ける事になってしまった。

部員を募集したところ、三年生6名、二年生3名が入部してスタートした。福田先輩は二回程指導してくれた。護国神

社の土手をスタンドにみたてて指導して頂いたが、腕の動かし方は案外むづかしかった。指導された要点は二つあった。

- (一) 声は大きく、明確に発生すること
- (二) 応援は普段は目立たず、必要な時に

出て来て、統制をとった応援をするであつたと思う。昭和25年夏の大会は、対戦校が前高であつたので、多くの生徒や先輩が応援に来て、当時としては組織だった整然とした応援が出来たと自負している。

時代が変わり、物資も豊かになり、在校生の気質も変わり、テレビなどの影響で応援の仕方も随分変わって来たが、常に学生らしく、爽やかな応援をして欲しいものと思っている。そして、もう一度甲子園で応援部も頑張ってもらいたいものである。

KIZUNA 藤井 正弘 (81期)

人間万事塞翁馬

一浪して高崎高校へ入学。リーゼントパーマだった私は、五分刈頭が並ぶ入学式のなかで、目立つ存在でした。早々、応援部の三年生に勧誘されることになったのですが、兄が前工の応援部にいたこともあり、「エンダン」に対する抵抗感はありませんでした。入部したのは、翠巒祭が間近に迫った5月下旬、翠巒祭で公演される「応援部リーダー公開祭」に向けた練習の最中でした。歌詞が覚えきれず、クチパクで本番に臨み、招待校の応援部員の嘲笑を買う

苦い思い出の初舞台でした。

当時の高崎高校応援部は、漫画の『嗚呼!!花の応援団』とは無縁の存在で、規律も殆どなく、和気藹々としていました。翠巒祭が終わり、三年生が引退したばかりのときは、一年が2人、二年が3人。それでも夏の高校野球県大会が近づくと、部活動に入っていない一年生を、半ば強制的に駆り集め、臨時の応援部員として確保することが公認されていたため、そこから正部員となる者が多く、二学期には、10人ほどになっていました。また、応援部には特権として、「授業の公欠」がありました。運動部からの要請に応じて、出席扱いで、さまざまな大会に向くことができ、部員勧誘においても、この特典は有効でした。

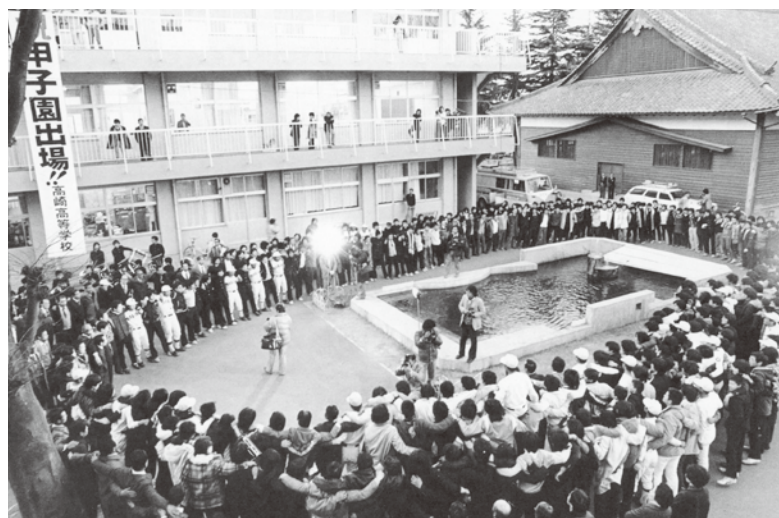
普段の練習といえば、自前のトレーニングウェアで、発声や基礎体力づくりが中心でした。直立して両手を羽のように広げた姿勢(リーダーの基本姿勢)を維持する根性比べのような練習では、悶え苦しむ部員の表情を見て「役者の～」と、楽しんだりもしました。時折、若手OBが訪れ、マシモのチェリオをご馳走してくれるのも楽しみの一つでした。

二年生になり、年功序列?で部長になってからは、部室は「憩いの場」、放課後の体育館の裏は「遊び場」のようなものでした。伝統とか、高々生らしくとか、考えることもなく、『自由闊達』な校風をいいことに、お気楽勝手な高校生活を過ごしていました。

この年の秋、野球部が県大会で優勝、



昭和25年7月 対前橋高校戦における高崎の応援風景(高崎城南球場)



昭和56年1月31日午後4時23分、選抜選考委員会からの甲子園出場正式決定の電話連絡が入った瞬間。

小4~中3 補習・高校受験

翠ゼミナール

みどり 山岳部OB(79期) 吉井昭道
応援部OB(85期) 木内寛樹

前橋市総社町総社1520 TEL.027-253-7036
利根郡みなかみ町後閑329 TEL.0278-62-1379

山岳部OB(78期)

税理士 吉井 章一

吉井章一税理士事務所
高崎市上中居町251 TEL 027-328-6701

山岳部OB(84期)

代表社員・税理士 真下 哲夫

税理士法人 真下経営
高崎市倉賀野町1713 TEL 027-346-1463

続く関東大会で準優勝と大活躍し、翌年の昭和56年(1981年)春、第53回選抜高校野球大会(甲子園)に悲願の初出場を果たすことになります。出場が決定して間もないころ、その裏側では応援部OB会に、全国放映されるには、高々生らしくない風貌と、髪型や口髭を非難され、応援部の甲子園出場が危うい状況もありました。また、試合前日には大阪市内の宿泊先で門限を守らず遊び耽り、もう少しで謹慎処分になるところでした。そんな我がままな応援部員を最後まで庇ってくれたのが顧問の鈴木さん(鈴木先生)でした。教職員の一部から不評を買う応援部でしたが、応援席に立てば、リーダーの号令のもと、統率のとれた応援を綺麗にこなしていましたし、生徒からも支持されていたと思います。甲子園の応援に向けて新たに募った臨時部員からも正部員に繋がり、三年生の時には、20名ほどが籍を置いていました。

高崎高校応援部の歴史のなかで、よき時代の最も恵まれた瞬間だったのかも知れません。甲子園の三塁側アルプススタンドを埋め尽くす、高崎高校大応援団の団長として、リーダーを演じる「幸運」を授かることができたのですから。

創部に尽力された先輩、そして継承してこられた先輩たちがおられ、高崎高校に応援部があったからこそ、甲子園の舞台に立つことができたことに感謝しております。

時代が変わり、県内各校で応援部が姿を消すなか、部として存続させようと努力している現役部員を頼もしく思います。

学校の運動部ですから、現役部員が納得して、やりたいようにやるのが一番だと思います。ただ、愛校心とか厳しい規律が高崎高校応援部の歴史・伝統ではありません。格式に偏ることなく、仲間と一緒にいろんな汗をかいて、楽しみながらも、「やるときゃきっちりやる」で、いいんじゃないかと思います。決して負けることのない楽しい運動部なのですから。

KIZUNA 佐藤 英樹 (92期)
高々の「顔」

高崎高校92期卒業佐藤です。私は高崎高校在学中、応援部に所属していました。応援部と聞くと、暴力・しごき等、現在世の中を騒がしているニュースを思い浮かべる方もいるでしょうが、実際に私が所属していた高崎高校応援部ではそんなことはありませんでした。

そんな暴力・しごきが伝統だと思われる可悲しいです。応援団といえばバンカライメージが強いですが、実際にバンカラです。バンカラであることが大切なのです。今の時代にバンカラだなんて時代遅れもいいとこだとお思いでしょ。実際私の現役時代でもバンカラなんて言葉は死語でしたし、特に格好のいいものではないと思っていました。私の応援部入部のきっかけは、私がちょっと元気がいい青年だったので先輩から見込まれての勧誘です。でするのでその時は特に強い思い入れもなく、やってみたくて部活もなかったので入部しました。

応援部の活動はみなさんご存知の通り、朝礼の際の壇上での校歌・応援歌のリーダーに始まり、野球の応援、リーダー公開祭、前高定期戦応援などです。応援部はそのような高崎高校の威信をかけた場面で、矢面に立って高校全体を盛り上げていく存在なのです。さらに高崎高校応援団は高々の校風を表し、高々の顔であり、高々の顔は高崎の街の中では威風堂々としている。そしてそれらがバンカラだと考えます。決して暴力がバンカラなのではありません。弱者を応援することで強者とする、応援団とはそのための存在なのです。

私が卒業後は高崎高校応援部を卒業しているという自信と応援部時代の活動から人前に出て話をすることや、矢面に立ち業務を遂行することなどに臆することがなくなりました。今年高崎高校OB会総会に初めて参加させていただきましたが、応援部の先輩方はほとんどの方が現役時代に面識がないにもかかわらず、応援部というつながりで好意にさせていただいております。現在部活動に参加していない生徒で、高々の顔として自分の高校生活を充実させたい、盛り上げたいと少しでも思うところがあれば、応援部に参加してみたらどうでしょうか?きっと現在の高校生活も高校を卒業した後の生活も有益となることは間違いのないと思います。また現在、応援部に所属している生徒は高々の顔として、今より一層、威風堂々とバンカラに振舞えるよう精進することを期待します。



昭和56年3月30日
甲子園球場三塁アルプススタンド

よき時代の頃、マラソン大会に学ラン、学帽、羽織袴姿で走る応援部員たち。



バレーボール部OB(82期)
株式会社 トータルライフサポート
岩丸 高明
高崎市八幡町946-4 環境ビル2F
TEL.027-340-3701 FAX.027-340-3715

情報システム株式会社
榎原 一好
(バスケット部 79期)
本社 〒370-0032 群馬県高崎市宿大類町1461番地1
TEL.027-350-1277(代) FAX.350-1278

株式会社 塚本工務店
塚本 浩史
(バスケット部 99期)
本社 〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡1848-1
TEL.0274-23-1212(代) FAX.0274-24-2300

19 專業報告

- 4月19日
● 第1回編集会議
- 5月20日
● 高崎高校創立110周年記念講演会
- 5月20日
● 高崎高校創立110周年記念式典
- 5月20日
● 高崎高校創立110周年記念祝賀会
- 6月5日
● 第2回編集会議
- 6月8日
● 関東大会出場の部へ祝金
- 6月20日
● 第1回役員会議・理事会議
- 6月20日
● 監査役会
- 6月26日
● 総会・懇親会
- 6月26日
● インターハイ出場の部へ祝金
- 6月26日
● 翠巒体育第26号発行
- 8月9日
● ゴルフ大会役員会議
- 8月26日
● 第17回ゴルフ大会
- 9月14日
● 高校OB対抗ゴルフ大会(出場者慰労)
- 10月24日
● 第2回役員会議
- 11月13日
● 高崎高校マラソン大会 優秀者表彰
- 11月13日
● 陸上部高校駅伝関東大会出場 祝金
- 12月1日
● ソフトボール大会、親睦会
- 3月3日
● 高崎高校卒業式

第32回定期総会・懇親会

ラグビー部/飯島 雅年(78期)

平成19年6月26日、高崎ビューホテルにて、第32回定期総会が開催されました。高橋浩生会長挨拶の後、議長に高橋会長が選出され、平成18年度事業報告、会計報告、監査報告が満場一致で承認されました。続いて平成19年度事業案、予算案も満場一致で承認されました。以上の議事にひき続いて、第15回高同窓会ゴルフコンペ(平成20年5月12日) - 71期担当 -、第106回高中・高同窓会(平成20年1月26日) - 77期担当 - の紹介の後、國峯善次郎顧問の挨拶にて閉会いたしました。定期総会終了後、場所を隣に移し懇親会が開催されました。藤倉新一高崎高校校長の挨拶に続いて、原浩一郎同窓会長挨拶、永尾俊弘PTA会長の祝辞、岩田武雄顧問の乾杯、そして、高同窓会紹介・総体結果報告がなされ、各部記念撮影が和やかな内にとり行われました。そして、全員で翠巒斉唱、山口正敏顧問の御礼挨拶・中締めで懇親会は終了しました。



●翠巒体育会総会(高崎ビューホテル)



●インターハイ出場の部へ祝金贈呈(高崎ビューホテル)



●関東大会出場の部へ祝金贈呈

ゴルフ大会 団体優勝 陸上競技部

陸上競技部/谷一行(70期)

8月26日(日)残暑の中、5人の精鋭で参加、我が陸上競技部は念願の初優勝をしました。柔道部の4連覇を阻止した4人の精鋭は横尾信男(65期)、小林良明(68期)、後藤次一(68期)、石橋修(90期)で317ストローク。準優勝サッカー部に10ストローク差をつけ、78、78、80、81、の安定したすばらしいスコアでした。3人の先輩のスコアはもちろんですが、90期の若手?石橋君の活躍が初優勝の原動力だったと思われます。

今大会は合唱部がオープン参加、高同窓会チームが加わり、12団体参加の賑やかなゴルフ大会となりました。一昨年、後藤先輩が個人優勝したときに、誌上に「陸上部が、団体優勝、個人優勝、ベスグロの三冠を」と書いていましたが、先輩若手のますますの活躍があれば、可能かなという思いであります。

最後に各部の皆様のご健闘をお祈り申し上げます。



●陸上部高校駅伝関東大会出場 祝金贈呈



●高崎高校マラソン大会 優秀者表彰



●卒業式

剣道73期 堀口 順

夜10:00まで
おな様の食卓を
ささえます

堀田屋

鮮魚
お弁当
お酒

営業時間 AM9:00~PM10:00
高崎市剣崎町232/群馬八幡駅そば

foods hill

HORIYAMA
堀田屋

TEL(027)343-3233

高々剣友会

会長 **藤木 正行**
(剣道部69期)

高崎市南大類町1296
TEL 027-352-0026

名画とお好み焼きの店

アート館

JR新町駅北口徒歩3分
TEL.0274-42-2121 ぐるなび加盟店
剣道部58期 石川 哲朗

ゴルフ大会 個人優勝

剣道部／大山 駿作(71期)

私は71期剣道部の大山駿作です。この第17回翠巒体育会ゴルフ大会ネット個人戦の部で優勝させていただきました。団体戦では、剣道部にあまり貢献できなかった。どんなゴルフをしたか記憶は定かではありませんが、波の激しいゴルフで同伴競技者の皆さんにご迷惑をお掛けしたのではないのでしょうか。多く打ったホールが全てハンディに繋がりと、結果ネットでアンダーになってしまい、本当にくじ運の強さに我ながら驚いた次第です。この様なラッキーはもうないとは思いますが、続けて参加させていただきますので宜しくお願いします。この会の参加者が増え益々盛んになりまことを御祈念申し上げお礼の言葉とさせていただきます。



●個人戦優勝の大山さん

●団体戦

順位	運動部名	合計
1	陸上	317
2	サッカー	327
3	山岳	327
4	卓球	332
5	柔道	332

同スコアの場合は5人目のスコアの良い順番

●ネット個人戦

順位	氏名／運動部名	アウト	イン	グロス	HCP	ネット
1	大山駿作(剣)	44	43	87	18.0	69.0
2	小野里篤雄(山)	38	37	75	4.8	70.2
3	吉田和人(サッカー)	38	36	74	3.6	70.4

●グロス個人戦

順位	氏名／運動部名	アウト	イン	グロス
1	吉田和人(サッカー)	38	36	74
2	小野里篤雄(山岳)	38	37	75
3	橋爪洋介(卓球)	39	36	75

●グロス個人戦(シニア)

順位	氏名／運動部名	アウト	イン	グロス
1	沼賀勝平(柔道)	40	40	80

ゴルフコンペに参加して

高崎高校 副校長／松原 真介

昨年4月に高崎高校に勤務することになり、翠巒体育会主催のゴルフ大会があるとお聞きし、職員チームとして初めて参加させて頂きました。以前から、この大会もレベルが高いとお聞きしていましたが、全く恐ろしく、無謀にも参加したわけですが、職員4名全員が翠巒体育会の皆様との交流がもてたことが大変うれしく、本当に楽しいひとときを過ごさせて頂いたことを心より喜んでおりました。

しかしながら、結果は最下位でありましたが、それぞれの組と一緒にプレーする中で、以前の高々の各部活動の様子等の雑談に花が咲き、プレーと同様の楽しさを味わわせて頂きました。

参加されたチームもサッカー、柔道、水

泳、ソフトテニス等の運動部と、それに驚いたことに合唱部が参加しているではありませんか！ 個人的には私も音楽が専門でありますので、非常に嬉しく思いました。また、たまたま私がプレーしていた組に合唱部の方がおられ、現在の高々の合唱部員は1名しかいないこと、昔はNHK音楽コンクールで高女を破って最優秀賞をとったこと等、プレーの合間に話ができたことが印象的でプレーにも弾みがつきました。

最初は、職員チームで参加してよいものか、悩みましたが、翠巒体育会の皆様と心の底からお付き合いできる場として、今後もメンバーが揃うことが条件ではありますが、是非とも引き続き参加したいと思っております。次は頑張ります！

19年度 翠巒体育会収支計算書

自平成19年4月1日 至平成20年3月31日

科目	金額	摘要
年会費収入	350,000	@25,000×14部
同窓会補助金	300,000	高崎高校同窓会
広告費収入	210,000	@15,000×14部
親睦会収入	240,000	H19. 6.26
ゴルフ大会収入	288,800	H19. 8.26
ソフトボール大会収入	84,000	H19.12. 1 高崎高校校庭
雑収入	257,000	同窓会ゴルフ補助金、祝金、会議個人負担
受取利息	2,222	群馬銀行
(当期収入合計)	(1,732,022)	
前期繰越収支差額	801,663	
収入の部合計	2,533,685	
総会・親睦会費	378,000	H19.6.26 高崎ビューホテル
現役補助金	274,390	関東大会、インターハイ等出場の運動部、マラソン大会、OB対抗ゴルフ
会報発行費	377,212	「翠巒体育」第26号
ゴルフコンペ費	237,160	H19. 8.26 ローズベイクントリークラブ
ソフトボール大会費	101,582	H19.12. 1
慶弔見舞金	39,100	
事務用品・通信費	30,210	
会議運営費	250,448	編集会議、役員会議等
銀行振込手数料	1,050	群馬銀行
(当期支出合計)	(1,689,152)	
特別会計拠出金	0	特別会計への拠出金
支出の部合計	1,689,152	
(収支差額)	(42,870)	(当期収入合計) - (当期支出合計)
次期繰越収支差額	844,533	収入の部合計-支出の部合計

財産目録 平成20年3月31日現在

科目	金額	摘要
現金	0	現金手許有高崎栄町
預金	844,533	群馬銀行高崎栄町(普) #0783238 一般会計分
正味財産	844,533	

特別会計 平成20年3月31日現在

科目	金額	摘要
普通預金	500,000	群馬銀行高崎西(普) #0593363 特別会計分
特別会計財産	500,000	

口座振込ご利用の場合は、下記口座までお願い致します。
群馬銀行 高崎栄町支店 普通預金0783238
スィランタイムカイ カイケイ ヨシシヨウイチ
翠巒体育会 会計 吉井章一



●第17回翠巒体育会ゴルフ大会(平成19年8月26日・ローズベイク.C.)

ソフトボール大会&懇親会
柔道部／志田 登(82期)

「太陽誘電伊藤投手に挑戦」

恒例となりましたソフトボール大会が平成19年12月1日高崎高校野球グラウンドにおいて開催されました。今回のソフトボール大会は、太陽誘電女子ソフトボール部の伊藤美幸投手をお招きし、通常の試合前に伊藤投手に挑戦できるという特典がありました。2007年日本リーグで防御率0.78の成績を残す伊藤投手相手に、トップバッターとして挑戦された高橋会長をはじめ、皆さんがファールで粘るなど運動能力の高さを示され、宮川君(ラグビー部)の渋く1・2塁間を抜くというヒットも生まれました。また、伊藤君(柔道部)のご長男聡一郎君も「(ソウ)イチロー」目指し、お父さんと一緒に挑戦するという微笑まし

い場面もありました。その後の試合は、例年どおり好プレー珍プレーもあり、無事にそして楽しく実施されました。

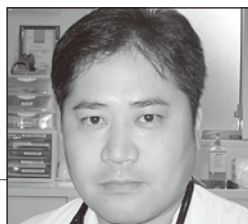
また、萬屋での懇親会は、伊藤投手やソフトボール大会に参加できなかった方にも参加していただき、大変な盛り上がりの中で行われました。



●ソフトボール大会(高崎高校野球グラウンド)



メデイカルチェック VOL.9
最近話題のピロリ菌!?



清水胃腸科・内科
クリニック
院長
清水 直樹
応援部(89期)

はじめに

皆様こんにちは、89期応援団の清水直樹でございます。平成18年5月に高崎市町屋町に清水胃腸科内科クリニックを開業して2年が経過いたしました。日頃より諸先輩、OBの皆様大変お世話になっておりこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

さて今回のメデイカルチェックでは直接スポーツには関係しませんがテレビや新聞などでも最近話題のピロリ菌についてお話をさせていただきます。

ピロリ菌とは?

正式名称ヘリコバクターピロリ Helicobacter pylori(以後 H.pylori と簡

略)は、らせんの形態をした微好気性のグラム陰性桿菌で胃の粘膜に生息しています。4~8本の鞭毛と呼ばれる毛を持っており活発に運動することができます。(図1) 歴史的には1983年にオーストラリアのWarrenとMarshallによって初めて分

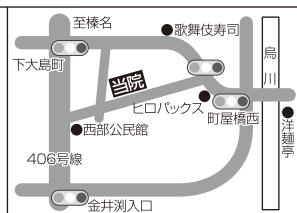


(図1)

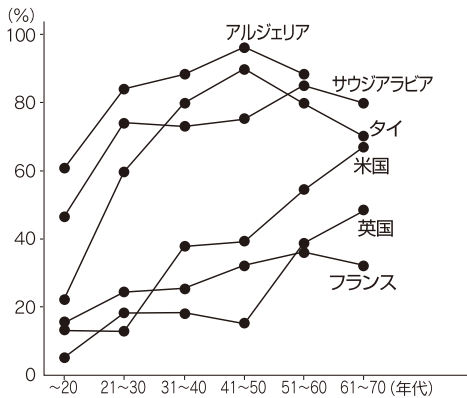
離培養されました。Marshallはなんと自分自身をモルモットとし胃炎患者から分離されたH.pyloriを飲んでみました。その後14日目に嘔吐、悪心、腹部不快感などの症状が認めました。これはピロリ菌が原因の急性胃粘膜傷害であると考えられました。他にも同様の研究発表などより感染経路ははっきりわかっていませんが、経口感染であろうといわれています。またH.pyloriの感染率は衛生環境と関係していると考えられています。発展途上国と比べると先進国における若い人のH.pylori感染率が低いことがわかります。(図2) 発展途上国では全年齢を通じて、また先進国でも高齢になるほど感染率が高いことがわかります。これはH.pyloriが衛生環境の状態と深い関連があることを示唆しており、先進国において経年段的に衛生環境がかなり改善してきたため



清水胃腸科・内科クリニック
内視鏡完備(胃カメラ・大腸カメラ)、生活習慣病、往診応需
診療時間 9:00~13:00、15:30~18:30
休診日 木曜(午後)・土曜(午後)・日・祝祭日
高崎市町屋町627-1 TEL.027-360-4771



感染率が減少してきたと考えられます。本邦においても50歳以上のH.pylori感染率は高く(70~80%)、若年層では低くなっておりま



(図2) 先進国と発展途上国における年代別 H. pylori 感染率

ピロリ菌と胃粘膜傷害

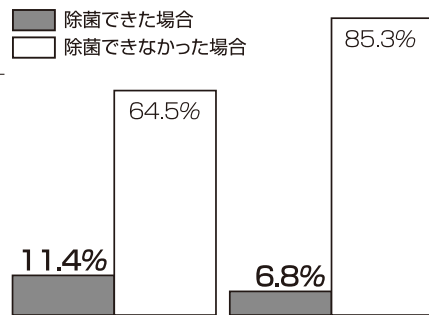
H.pylori はウレアーゼという物質を産生し、このウレアーゼによって尿素を分解し産生されるアンモニアが直接的に胃粘膜を障害します。また活性酸素と反応して強力な傷害作用をもつモノクロアミンを産生し、これも胃粘膜に傷害をもたらします。さらにH.pyloriは胃粘膜上皮細胞に空胞を生じさせる空胞化毒素蛋白を産生します。この蛋白は潰瘍の形成に関連があると考えられております。一方H.pyloriに感染すると生体防御反応として炎症反応が引き起こされ免疫をつかさどる様々なホルモンが分泌され炎症を増強し、その結果、胃粘膜傷害を認めることがわかっています。

ピロリ菌と胃・十二指腸潰瘍

H.pyloriに感染すると胃の慢性炎症を引き起こしますが、ほとんどの人は自覚症状を示しません。慢性胃炎の持続により萎縮性胃炎に進行する場合も多く認められます。一方、胃十二指腸潰瘍の患者の90%以上がH.pyloriに感染しており除菌療法によりH.pyloriを除去すると著明に再発が抑制されることから潰瘍の発症にH.pyloriが関与しているは明らかとなっています。(図3) これまで胃潰瘍や十二指腸潰瘍は主に胃酸分泌抑制薬による治療が行われていました。しかし治療しても再発を繰り返すことが多く、長期にわたる維

メディカルチェック 最近話題のピロリ菌

持療法(胃酸分泌抑制剤の服用)をしなければなりません。H.pylori以外にも酒、タバコ、非ステロイド性消炎鎮痛剤などの薬剤、過度のストレスなどが潰瘍の原因になることがあると考えられています。しかし非ステロイド性消炎鎮痛剤を除いてはH.pyloriと無関係に消化性潰瘍を惹起する可能性は低いと考えられています。つまりH.pylori感染にこれらの要因が加わった時、潰瘍を発症する危険性がより高くなるのです。



(図3) 1年間に再発する人の割合

ピロリ菌の診断、治療法

H.pylori感染の有無を調べる方法として①迅速ウレアーゼ試験②鏡検法③培養法④尿素呼気試験⑤抗体測定⑥便中抗原測定と様々な方法があります。これらは内視鏡を使用する方法と使用しない方法があり①~③は内視鏡を使用し組織を採取しますが④~⑥は内視鏡は使用せず血液、便、呼気を用いるため簡便であります。ただしそれぞれ診断率に若干の差を認めております。

治療法としては抗生剤2種類と胃酸分泌抑制剤を7日間服用する方法が一般的に行われております。近年は抗生剤に耐性を持つH.pyloriが増加し除菌成功率は低下傾向にあります。数年前に90%だった除菌成功率は70%程度まで低下しています。このため1種類の抗生剤を別の薬剤に変更して行う2次除菌療法が2007年8月に保険適応となりました。(1次除菌不成功者のみ)この方法は除菌成功率90%以上と良好であります。除菌療法の主な副作用は軟便、下痢、味覚障害、肝機能障害など報告されています。

またH.pyloriの除菌に成功した患者の5~10%に胃や十二指腸のびらん、逆流性食道炎の発症も報告されています。

しかし全国6000万人のH.pylori保有者がいるにもかかわらず保険適応が潰瘍患者のみに限られているのが現状です。自費にて治療している医療機関も増えてはいるが、今後は慢性胃炎、萎縮性胃炎にも保険適応が認められればさらに除菌治療が進むと思われます。

最近話題の経鼻内視鏡について

歴史的に胃カメラは苦しくて大変な苦痛を伴うものと認識されてきました。最近内視鏡器具及び技術の進歩により経鼻内視鏡なるものが普及してきております。外径6mmの極細内視鏡(図4)を用いて行い内視鏡本体が咽頭部粘膜を擦らないため咽頭麻酔をしなくても咽頭反射がほとんどなく、さらに検査中に会話ができるなど被検者の負担は少なくなりました。本体が細いため光源が少し弱いですが、病理組織検査(生検)も可能でありスクリーニング検査には十分であります。経鼻、経口内視鏡の両方を経験した患者では90%以上が次回に経鼻内視鏡を希望するとの報告もあります。一度、試してみてもは如何でしょうか?



(図4)

おわりに

最近、H.pyloriは胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎だけでなく胃癌との関連も報告されています。スポーツをする上で食事、栄養補給は欠かすことができません。長くスポーツを継続するためにも食物エネルギーを消化吸収する消化器は大切であると思われます。この機会に皆様も自身のピロリ菌の有無を調べてみてはいかがでしょうか?

高崎白衣大観音 高野山別格本山 **慈眼院**
 住職 橋爪 良真
 (バスケット部 75期)
 高崎市石原町2710-1 TEL.027-322-2269
<http://www.takasakikannon.or.jp/>

税理士 高橋浩生 バレーボール部OB(78期)
 白井浩一 水泳部OB(89期)
 高橋浩生税理士事務所
 〒3700072 高崎市大八木町3002番地10
 TEL 027-363-6303 FAX 027-363-6302
 URL http://www.kaikei-home.com/cpta_hiro-hp/

バレーボール部OB(79期)
ケンマ商会
 猿谷 稔
 〒379-2166 前橋市野中町397-2
 TEL・FAX 027-263-1198

OB 各運動部OB会の近況報告



サッカー部

清水 清志
(81期)

サッカー部OB会は、現役諸君へのサポートを主たる目的とし、活動しています。昨年は、サッカー部創部60周年ということで記念パーティーが11月17日(土)に開催されました。歴代顧問や学校関係者、サッカー協会関係者および各部OB会からも出席を賜り盛大に開催することができました。今年は61年目。現役、OBともども新たな前進ということでがんばっていきたいと思います。

また群馬シニアリーグに参加する翠龍クラブ(前高OBとの合同チーム)、高崎市民リーグに参加するミドル翠巒、群馬リーグ3部に参加する翠巒クラブに各世代のOBが参加しています。新メンバーも加入し、「優勝」を目指してがんばってほしいものです。

今年度も例年実施しています高高・前高サッカー交流戦が開催されます。高崎高校のホーム開催となります。8月第二土曜日の9日に開催予定です。

ぜひ現役およびOB諸君が活躍し、飛躍する年になればと考えています。今年もよろしくお祈りします。



水泳部

永尾 俊弘
(70期)

本年4月に東京辰巳水泳場で、北京オリンピック選考会を兼ねた水泳全日本選手権が行われました。200m自由形決勝で、本県出身の内田翔君が2位となり、北京オリンピック4×200mリレーの出場権をみごと獲得しました。内田翔君は、小学校・中学校・高校(高崎商業高校)と群馬スイミングスクールで、本校水泳部OBで66期卒業の小茂田猛コーチの薫陶を受け、先のアテネオリンピック選考会でも、200m、400m自由形で好成績を残しましたが今

一歩及ばず、アテネオリンピックには出場ができませんでした。大学進学後残念ながら一時低迷しましたが、昨年より再び群馬スイミングスクールに戻り、小茂田猛コーチのもとで研鑽に励み、みごと北京オリンピック出場を勝ち得ました。内田翔君とともに、小茂田猛先輩がサポーターコーチとして北京オリンピックに行くことになりました。奇しくも、52年前、本校水泳部OBでメルボルンオリンピックに参加した清水健先輩(53期卒業)と同じ種目で、内田翔君は北京オリンピック出場することとなりました。内田翔君・小茂田猛先輩の北京オリンピックでの活躍を、高々水泳部OB一同期待しております。



ラグビー部

黒石 康暢
(81期)

ラグビー部OB会は、平成20年1月5日高崎ビューホテルにおいて新年総会を開催。昨年度OB会活動および決算報告ならびに今年度

事業予定が発表され承認された。また、総会に先立ち、豊岡グラウンドでOB紅白戦が行われた。本来であれば現役対OB戦のは

ずであったが、現役2年生7人・1年生4人の合計11人と15人に満たない陣容のためOB紅白戦となった。しかしながら、現役も混ざったゲームは白熱したものとなった。3月1日の卒業式では、9名の卒業生に対してラグビー部OB会エンブレムを贈呈し、卒業とOB会への入会を祝った。

3月29日には、初めての企画である『高々ラグビー祭』を豊岡グラウンドにて実施。現役・若手OB・ベテランOBの順に白熱したゲームを展開。高々ラグビー魂を存分に発揮した。ゲーム終了後は、現役・OB・現役保護者会・相手チーム合わせて100名以上がバーベキュー、ビンゴゲームと大いに盛り上がり、最後にラグビー部部歌を全員で歌いエールで氣勢を上げた。OB会活動については、昨年度ラグビー部OB会ホームページを立ち上げたので参照されたい。

OB会として現役支援を最大の役割として考えているが、目下の悩みは現役部員数の減少である。今期の新人戦及び春の高校総体は少人数制ラグビーへの参戦となっている。現役部員数増強のため何ができるかが課題である。



陸上競技部

波多野 重雄
(77期)

例年行っているOB会総会及び懇親会を7月27日にホワイトインで行いました。総会に先立ち昨年度～今年度にご逝去された岩田昇先生、内田光之先生、57期の木暮登先輩に黙祷を捧げました。木暮先輩は同期の4名の方とともに毎年のように総会に参加されてい

ました。役員改選の年ではありませんでしたが、理事に県中体連陸上部長を務める永井正樹さん(80期、110mHインターハイ4位入賞)と、若手代表の中山拓紀さん(102期、800mインターハイ出場)が新たに加わりました。これを機に若い世代のOB会活動への参加を期待します。8月に行われた翠巒体育会のゴルフ大会では、横尾信男さん、小林良明さん、後藤次一さん、石橋修さんの活躍でみごと団体優勝を果たしました。陸上はすべてのスポーツの基礎。ゴルフにも生かされているようです。今年もぜひ連覇を狙ってがんばってください。



ソフトテニス部

田口 恵一
(74期)

平成19年度のOB会は8月11日に開催しました。現役とOBの親善試合は、昨年・一昨年と2度雨天のため中止となりましたが、今年

は、37°の猛暑の中無事おこなわれました。OBは若手中心に32名参加しました。普段からコートに立ち、ソフトテニスをこよなく愛しているベテランOBである大澤氏、奥村氏(63期)も現役と熱戦を繰り広げました。

夜は長谷川ホテルにて、総会及び懇親会をベテラン中心に18名で行いました。丸山博会長(68期)の挨拶で始まり、高中(高々)

がんばれ 高崎高校柔道部

目指せ日本一 祝H20関東大会 個人・団体出場

柔道部OB会 会長 関口 茂樹(63期)

庭球部応援歌を最後に歌い、お開きとなりました。現役の活躍に比べ、OB会の参加人数がここ数年減少してきています。又、翠巒体育会ゴルフコンペは過去2回、参加人数が3人の為、団体選の成績が残せず残念な結果となりました。ソフトテニス部の偉大な先輩である「清水善造」氏の名に負けないように、何とかOB会も頑張っていきたいと思っています。



卓球部

橋爪 洋介
(85期)

卓球部OB会です。お正月には現役との交流試合を行い、同夜にはOB会による新年会を「割烹魚仲」にて開催いたしております。また、8月は現役生の合宿にも参加し、己の体力の低下を実感しながらも卓球に汗を流しております。顧問の内田先生、小林先生や、たくさんのOBの皆さんのご理解をいただきながら、現役、OBとの絆を保てることにたいへん感謝いたしております。最近はおちよつとした「卓球ブーム」でありまして、福原愛選手も出場した「世界卓球」もゴールデンタイムに放映されたり、ビジュアル系の選手などもメディア等で扱われております。さらには、全国的に高齢化社会を迎えて医療費抑制が叫ばれる中、生涯スポーツとしての卓球も中高年が負担感無く、「生涯楽しめるスポーツ」として、余暇、競技心、健康管理を満すことに一役買ってあり、我がOB会の諸兄も「卓球ベテラン会」等で大活躍をされています。今後とも卓球部OB会をどうぞよろしくお願いたします。



剣道部

小池 政一
(77期)

剣道部OB会では、例年1月3日に新年稽古会が行われ、現役部員と共に汗を流すことが恒例となっている。また、春・夏の現役剣道部の合宿にも有段者のOBが参加し、部員の指導に当たっている。

会員の親睦の機会としては、新年稽古会の後、高崎ビューホテルで、総会・懇親会がある。新年会には直接剣道に携わっていないOBも参加してください。ただ、還暦を過ぎた先輩方の割に、20代・30代のOBの参加が少ないのが寂しい。若手OBの参加が今後の課題である。

20年総会で、これまで会長を務めてきた笠井秀昭氏が勇退され、以前、長く事務局を務めてきた藤木正行氏が新会長となった。藤木会長は剣道連盟高崎支部の事務局長でもあり、高崎市の剣道の発展に尽力しておられる。剣友会の発展とともに、現役部員の強化にも力を尽くして下さると思う。



バスケットボール部

橋爪 良真
(75期)

昨年度はとくに目立った活動はなく、例年通り、7月のOB総会、元旦の現役との交流試合等の実施、翠巒体育会行事への参加などでした。このところの総会は、先輩方の何らかの祝賀会を兼ねることが多かったのですが、昨年度は通常の総会であったため参加者も二十名ほどと少し寂しい状況でした。80期・90期代OBの参加が長年の課題なのですが、いまだ解決しておらず、それどころか住所不明の者も増えてしまい、今年は数年ぶりに住所を調査

しようと考えています。その過程でもう一度若手OBとのつながりを深めていきたいと思っています。一昨年より現役生への助成を大幅に増やし、頑張ってくれてはおりますが、やはり全国大会に出場してもらおうと我々OBも励みとなり、また団結もできますので大いに期待したいと思っています。



柔道部

鳥居 吉二
(73期 顧問)

1月3日には恒例の、新年初稽古が高崎高校柔道場で行われました。若手OBが多数集まり、現役選手に胸を貸したり、借りたりしました。特に今年度は群馬県新人柔道大会で五十数年ぶりの優勝もあり、初稽古にも熱が入りました。また、さらには2週間後に全国高校柔道選手権大会の県予選が控えていたこともあり、現役選手も若手OBも新年早々から大いに盛り上がりました。1月19日の大会結果は、決勝戦で前橋商業高校に2対3で敗れ準優勝でした。選手諸君はよく闘いましたが、念願の日本武道館での闘いには駒を進めることが出来ませんでした。このメンバーによる今年のインターハイ予選等の頑張りを期待します。今年にはインターハイがお隣の埼玉県開催です。埼玉には埼玉大学院生として、かつて高崎高校2年時に熊本インターハイで5位入賞をした柗澤君らが側面から応援してくれることになっています。また、現役選手のキャプテンである池田君は埼玉県生まれでもあります。そんな地の利を生かして、念願の全国優勝を果たしてもらいたいものと期待しています。

また今年は、若手OBからの朗報が2つ入りました。一つは平成12年卒(99期)の松岳祥児君が司法試験に合格しました。もう一つは、平成15年卒(102期)の青木智紀君が公認会計士の試験に合格しました。これからは本当に大変なのだと思いますが、柔道で培った精神で、大いに活躍して欲しいと祈っています。



山岳部

吉井 章一
(78期)

山岳部OB会はこの5月24日に久方ぶりに総会を開くことができました。長年にわたり顧問をして下さった高橋信男先生や、現顧問の手島直樹先生も参加していただき70名あまりのOBが集まり親交を深めることができました。

2年前には現役生が途絶え休部目前という危機に立たされたにもかかわらず、今年の総体は関東大会に進出という結果を残したとの報告がありました。山岳部顧問になり1年にして成果を出した手島先生の手腕もまさに感激ものでした。

また、山岳部独自のメールアドレスを開設することが決定しました。今後は、連絡事項や会員の近況などを配信することにより、会員相互のコミュニケーションを深めることに役立つこととなると思います。



硬式野球部

小林 均
(77期)

平成19年度野球部OB会は、境原尚樹氏(81期)が念願であった本校野球部監督に就任するという慶事から始まりました。7月総会の

祝 内田 翔君 北京オリンピック出場
小茂田 猛先輩 (66期) 期待しております

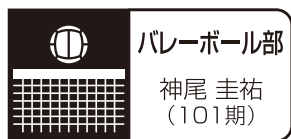
高々水泳部OB会一同

ほか保護者会総会、翠巒体育会総会、選手激励会、夏大会の応援、翠巒体育会ゴルフコンペとソフトボール大会など例年通りの事業を継続しました。残念ながらOB諸氏が参加する野球は開催できませんでした。本年は、OB野球を実現しOB会員あるいは現役部員との交流を図りたいと考えています。

現在の本校野球グラウンドは、監督と部員の努力で見違えるほど素晴らしいグラウンドに生まれ変わっています。OBの皆さんには是非ご覧いただきたいと思います。



押忍 応援部OB会は、毎年1月に定時総会・新年会を開催し、「新年同窓会総会」や同窓会関係行事では校歌、応援歌のリーダーを務めさせていただいております。また、翠巒祭前の合宿や夏の野球部甲子園予選での現役応援部への激励訪問を行っております。今年は清水君(89期)、脇田君(89期)、田口君(91期)、佐藤君(92期)といった若手OBにも総会に参加いただき、課題であった「若手OBの参加」といった点も解消されつつあります。また、しばらく開催できていませんでした「応援部ゴルフコンペ」も今年は開催できそうなので楽しみです。応援部の伝統を少しでも残すべく「高崎高校応援部のリーダーの型」を撮影しDVDにして、現役後輩に伝承するのもOB会の務めとして秋山会長(74期)を中心に取り組みたいと思います。



19年度バレーボール部OB会は、恒例となっている現役生との交流試合を1月3日に開催致しました。親睦会では、菊地OB会長をはじめとする諸先輩方、現バレーボール部顧問の塚本先生、そして101期から106期までの若手OBが顔を揃え、世代を超えて交流を深めました。

県外に住む学生メンバーが多く、練習不足だった翠巒クラブは、徐々にメンバーが就職して群馬に戻り、塚本先生の格段なるご協力のもと、この春から定期的に練習を行い始めました。出席率も高く、十分に練習して大会に臨むことができそうです。今年こそ県大会を制し、堂々と全国大会へと駒を進めていきたいと思っております。

また、現役生にはお忙しい中練習相手になっていただき、この場を借りて深く御礼申し上げる次第でございます。各種大会にできるだけ足を運び、春高・インターハイ出場を果たせるよう声援を送りたいと思っております。



硬式テニス部OB会は、昨年は高崎市宮間屋町テニスコートをお借りして行いましたが、今年度は高崎高校テニス部顧問・中村先生、岡田先生のご尽力もあり高崎高校のテニスコートをお借りして開催する予定です。期日は8月9日(土)12:00~17:00です。多数の参加を心待ちにしています。尚、毎年現

役部員との試合も組んでおります。世代を超えたテニスの交流ができるひと時になればと思っています。

また、夜の懇親会も会場及び時間は未定ですが同日に行う予定です。汗を流した後の旧知との語りもまた格別なものです。ぜひ奮って参加くださるようお願い申し上げます。

最後に、現役部員の皆さんには祝勝の暁にはOBで支えるよう準備していますので、是非ともテニスに精進して下さい。

翠巒体育会
http://www5.wind.ne.jp/t2suiran/
翠巒体育会の活動にご意見・ご要望などがありましたら下記メールアドレスまでお気軽にご連絡ください。
E-mail suiran-taiikukai@apost.plala.or.jp



応援部 田村 侑希

今の応援部が高々生にそれ程必要とされているように思えません。我々は高々を盛り上げるための集団であるにも拘わらず、内向的で自己満足に陥っているのでないかと最近思うに至りました。

高崎高校応援部は常に変化を遂げてきました。今になって懐古主義を持ち出す必要は全く無いはず。『ゆく川の流れるは絶えずして、しかももとの水にあらず』。過去から現在へ、そして未来へと時代は、そして高々、高々生は変わっていきます。我々に求められているのは「伝統」と名付けた幻想に執着する事ではなく、今を見つめる事だと考えます。

応援部のあり方を考え、リベラルで積極的な活動を展開する事を目指し、今後更に精力的に活動していきます。伝統より更に栄あれ。



ラグビー部 佐藤 聡太

高々ラグビー部は、西澤先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、花園へ向けて日々練習に励んでいます。

現在部員数が少なく、新人戦では高崎工業との合同チームで出場しました。県予選では合同チームの部で優勝し、関東大会では三位になることができました。高校総体には七人制での出場となりますが、ジャパンセブンズの関東選抜として二名が出場したので、その経験も生かし、優勝を目標に戦いたいと思います。

花園予選でも優勝を目指して戦い、最高の結果を残したいと思っております。顧問の先生方、OBの方々への支えに感謝し、期待に応えるべく頑張ります。

「Brand New Start ~新たな前進~」
高崎高校サッカー部OB会 優勝目指せ!!
会長 清野 哲雄 (74期)



バスケットボール部 稲垣 成人

私達バスケットボール部は、3年生10人、2年生11人、1年生15人の計36名で、戮力協心をモットーに長竹先生、坂本先生のご指導の下、インターハイ出場を目指して毎日厳しい練習に励んでいます。また、挨拶や返事をしっかりするなど当たり前の事を徹底してやっていくことで一社会人としての基本的な礼儀、何事にもくじけない強い精神力を部活動を通して学んでいます。今のチームは決して個々のレベルが高いとは言えません。しかし苦しい練習を共に乗り越えてきた仲間の団結力はどこにも負けないと思っています。試合でもこの「チームの力」で最後まで絶対に諦めず戦いぬいて、群馬県優勝、インターハイ出場を成し遂げたいと思います。応援よろしくお願いします。



バレーボール部 土橋 俊平

我々バレーボール部は、顧問の塚本先生、宮川先生の熱意あるご指導の下、3年生13名、2年生7名、1年生9名の計29名で日々練習に励んでいます。ここ数年は、目標である県優勝にあと一步のところまで手が届かず悔しい思いをしています。これから訪れる総体やインターハイ予選に向け、限られた練習時間の中で工夫して練習に取り組みたいと思います。

顧問の先生方や保護者の方々の支えに感謝しながら、これからも日々精進していくつもりですので、応援よろしくお願いします。



卓球部 寺島 昇吾

私達卓球部は、現在3年生11名、2年生10名、1年生6名の計27名で日々活動しています。ここ数年、大会や定期戦で思うような成績が残せていないのが現状ですが、今年こそ結果を出そうと部員全員が意欲的に各々の課題に取り組んでいます。また、8台の卓球台を効率良く利用するために、多球練習やエレベーター式等を行い、チーム全体のレベルアップを目指しています。これらの練習により、部内に団結力やライバル意識、そして信頼感が生まれました。今のチームは一丸となって戦うことで、技術面で及ばない相手にも勝てると信じています。顧問の内田先生をはじめ、多くの方々に支えられて卓球ができることへの感謝の気持ちを忘れずに日々励んでいきます。これからもよろしくお願いします。



剣道部 丸山 貴之

我々剣道部は、顧問の渡辺先生のご指導のもと、日々稽古に取り組んでいます。今年も昨年と同様に新入部員が多く、3年5名、2年10名に、1年8名が加わり、更に活気が増しました。計23名という、県内の剣道部でも有数の大所帯の中、一人一人が目標を持って取り組んでいます。今年の剣道部には、圧倒的な実力を持った選手はいませんが、チームとしての戦力は、この数年ではかなり優れています。部員の実力差も大きくないので、部員同士の競争も激しく、稽古の雰囲気も、緊張感のある、よいものとなりました。

3年生は引退も間近になりましたが、「不撓不屈」の精神で、最後まで決してあきらめず、上位入賞を目指して頑張ります。



硬式野球部 櫻井 悠人

我々硬式野球部は、3年生15名、2年生18名、1年生22名の計55名で構成され、境原先生、島田先生、村田先生、関根先生ご指導のもと、日々練習に取り組んでいます。「24時間練習」を全ての土台とし、野球を知り、どんな相手にも負けない試合運びをすることを目指しています。強豪校にも臆することなく向かっていく勇氣、ここ一番で覚悟を決め、自分自身を信じ、仲間を信じて戦う心の強さ。これらがそろえば夏の甲子園初出場という目標は決して不可能なことではないと信じています。多くの方々に支えられ野球を出来ていることに感謝し、愛され続ける野球部を部員全員で作っていきたいと思います。御声援よろしくお願いします。



サッカー部 浅見 拓哉

我々サッカー部は、現在3年生29名、2年生21名、1年生28名の計78名で構成され、日々練習に励んでいます。昨年度は、目標としていた群馬県優勝を果たせず、新人戦では県3位に終わるなど悔しい思いをしてきました。そこで今年度は、強豪校よりも短くなってしまふ練習を今までよりさらに工夫し、充実したものにしてい群馬県優勝、さらに関東、全国大会出場を目標にチーム一丸となって全力で取り組んでいきたいと思っています。

また、サッカーをする以前の当たり前のこととして挨拶や礼儀をしっかりと、社会に出たときにきちんとした態度を取れるような人間形成を行っています。これからも応援よろしくお願いします。



陸上競技部 小林 幹

現在、我々陸上競技部は、顧問の田島先生、茂原先生、津久井先生のご指導の下、3年8名、2年17名、1年15名の計40名で構成されています。

陸上競技はほとんどが個人の競技なので、各々が自分の行う競技に対ししっかりと目標を持ち、その目標を実現させるために、今自分が必要としている練習に一生懸命取り組んでいます。

今まで行ってきた苦しい練習によって身に付いた自分の力を信じ、試合で十二分に力を発揮できるよう、そして、今まで自分達の掲げてきた目標を達成できるよう全力で頑張っていきますので、御声援の程よろしくお願い致します。



柔道部 池田 貴紀

私達柔道部は、3年生5名、2年生4名に加えて、新しく入部した1年生4名の計13名で日々練習に励んでいます。

限られた短い時間の中で、効率良く、相手をいかに投げるかを追究し、顧問である鳥居先生のご指導のもとで充実した練習をしてきました。その中で私達は、柔道の技術や体力だけでなく相手に立ち向かっていく姿勢や最後まで粘り強く諦めることのない精神も共に培ってきました。これから訪れる総体やインターハイ予選では、一試合一試合全力を尽くし、納得できる結果を出せるように頑張りたいと思います。良い結果を報告できるように頑張りますので、応援よろしくお願いします。

ガンバレ! ソフトテニス部

高崎高校 ソフトテニス部 OB会 会長 丸山 博(68期)

**硬式テニス部**

高橋 怜

私達硬式テニス部は、現在3年生16名、2年生15名、計31名で活動しています。これから新入生が、たくさん入ってくると思われます。部員数が多いわりには、コート数が少ないことや、照明が無いため夜遅くまで練習することができない中、限られた時間で、効率の良い練習を心掛け、県ベスト4を目標として日々練習に励んでいます。昨秋の新人戦では、シングルス2名、ダブルス2ペアしか本戦に行けず、また、団体戦では、県ベスト16という不本意な結果に終わってしまいました。しかし、私達3年生の最後の大会となる県総体では絶対に諦めないで今まで以上の結果を残したいと思います。

**ソフトテニス部**

折田 成康

我々ソフトテニス部は、顧問の井坂先生の素晴らしい指導の下、全国優勝を目指して日々練習に励んでいます。限られた時間の中、練習を工夫することももちろん、社会に出ても活躍できる人間になることを目標に人間性を磨いています。今年度は、関東選抜大会で一回戦負けという惜しい思いをしました。この悔しさをバネに、部員全員が一丸となり、まずは県の代表、そして関東、全国に大きく羽ばたきたいと思います。応援よろしくをお願いします。

**山岳部**

山野 恵太郎

私達山岳部は、3年3名、2年6名、1年1名の計10名で練習に励んでいます。普段は、ランニング、自然散策など観音様が見守る中、登山をするには恵まれた環境を生かして活動しています。

休日は、顧問の先生方と共に、県内の山々を中心に登山に行っています。また最近では、ロック・クライミングを行うなど活動の幅が広がってきております。

また高校総体では単に登山だけでなくマナーや料理、読図など様々な知識も問われるため、それらの勉強も行っています。

今年度は関東大会出場を目標に部員一同力を合わせて頑張っていきたいです。

**弓道部**

室 紀行

現在私達は3年生16名、2年生12名、1年生12名という多人数で活動しています。昨年までは野晒しの自校射場や浜川の道場で活動していたために、雨天時の練習ができない、移動に多くの時間を割かねばならない等、元々少ない練習時間にかかなりの圧迫が加わっていました。しかし、今年度で新設された道場「中新館」での練習が可能になったことで、これらの弊害を克服できる環境は整いました。使える時間の量は変わりませんが、限られた時間を最大限に活用することこそが最も高々生らしい姿勢だと信じています。練習があまり結果に結びついていかないのが現状ですが、先生方の指導の下、関東、更には全国への出場を大きな目標として、日々の練習に励んでいます。応援を宜しくをお願いします。

**水泳部**

西野 晃史

現在水泳部は、3年生3人、2年生2人、1年生2人の計7人で日々活動しています。学校にプールがあるという他校にはない最大のメリットを活かし、個人種目だけでなく、リレーでの関東大会出場も目指しています。昨年度の冬には浜川プールでの練習や筋力トレーニングを行い、夏に備えて力を蓄えてきました。また、昨年度末には合宿を行い、練習方法を工夫することで確かな手応えを感じました。今シーズンはその練習の成果を十分に発揮し、部員それぞれが自分のベストを出せるように頑張りたいと思います。

7人と部員は少ないですが、結束力は強く、お互いを高め合える精鋭たちが揃った素晴らしい部活となっています。応援よろしくをお願いします。

**バドミントン部**

根岸 亮太

現在、バドミントン部は、3年17人、2年11人、1年14人の計42人で活動しています。新たに村田先生を顧問にむかえ、日々、技術の向上を目指し練習に励んでいます。バドミントン部は、創設してから、歴史が浅く、まだマイナーなスポーツですが、年々着実に実力を伸ばし、県大会ではシングルス、ダブルスそれぞれベスト16、ベスト8を目標に掲げ取り組んでいます。時間的にも空間的にも制限されている部分が多いですが、工夫を重ね、短い時間を集中して有効に使うことによって、それらをハンデとせず、技術面以外の人間的な面の成長も心に留め、今後もバドミントン部が大きな躍進を遂げられるよう頑張ります。

**空手道部**

高瀬 雄斗

我々空手道部は、3年生10名、2年生10名、1年生7名の計27名で日々練習に励んでいます。昨年度は県高校総体、インターハイ予選ともに団体戦でベスト8に進出し、秋の新人戦ではベスト4入りを果たし、入賞することができました。練習場所が狭いという問題もありますが、今年度はさらに上を目指して各個人が練習に集中し、部全体の士気も高まっています。現在の目標は5月の高校総体で関東大会に出場し、そして1つでも多くの勝利をあげることです。決して届かない目標ではないので、達成できるよう頑張ります。応援よろしくをお願いします。

**軟式野球部**

工藤 博貴

高崎高校軟式野球部は、現在3年生17名、2年生21名、1年生15名で活動しています。練習日は、火曜日から金曜日と、一ヶ月に2・3回、土日に練習試合をしています。部員一人一人の個性が豊かで、明るい雰囲気の中で活動しています。

軟式野球部の3年生は春の高校総体で引退します。今までの大会は全て1・2回戦で敗退していますが、最後の大会は全力でぶつかっていき、優勝を目指したいと思います。そして、夏の大会からは1・2年生中心のチームで頑張っていきたいと思っています。軟式野球部の応援をよろしくをお願いします。

**目指せ！
極限の自己を！！**

高崎高校 陸上部 OB会 会長 谷 一行(70期)

陸上部OB会ホームページ開設しました。

<http://sports.geocities.jp/takatakarikujouob/index.html>

平成19年度 運動部活動状況

陸上競技部

関東高校大会(甲府)		
200m	小林 幹	予選 組4位
110mH	加舎敬太郎	予選 組4位
3000mSC	土屋貴弘	決勝9位
走高跳	松田貴之	決勝15位
やり投	齋藤駿介	決勝7位
やり投	黒澤太郎	決勝16位
八種競技	黒澤太郎	決勝2位
4×100mR		
	小林、加舎、高濱、大井田	予選 組8位
群馬県選手権大会兼国体予選		
1500m	関 祐輔	決勝5位
3000mSC	土屋貴弘	決勝3位
(上記選手が関東選手権大会出場)		
全国高校総体(佐賀)		
八種競技	黒澤太郎	決勝20位
県高校新人大会		
100m	小林 幹	決勝1位
200m	小林 幹	決勝3位
1500m	関 祐輔	決勝1位
5000m	関 祐輔	決勝1位
5000m	和田尉吹	決勝2位
やり投	黒澤太郎	決勝3位
(上記選手が関東選抜新人陸上選手権大会出場)		
県高校駅伝		総合成績4位
(8年連続関東高校駅伝出場権獲得)		
関東高校駅伝		43位
新人駅伝競走大会		総合成績4位

バスケットボール部

群馬県高等学校バスケットボール選手権大会兼第60回全国高等学校総合体育大会予選会		
2回戦	129 - 21	万 場
3回戦	105 - 29	中之条
4回戦	114 - 59	館 林
準々決	69 - 52	太 工
準決勝	76 - 85	樹 徳 3位
第62回国民体育大会秋季大会		
(秋田わか杉国体)		
2回戦	群馬選抜 83 - 63	鳥取選抜
3回戦	群馬選抜 55 - 120	秋田
(能代工業)		
		ベスト16
※高崎高校からは神子澤信彦、道下一樹、阿久沢一輝が選抜選手として出場		
全国高等学校選抜優勝大会2次予選		
準々決	66 - 77	高 商 5位
西毛地区新人大会		
2回戦	97 - 71	富 岡
3回戦	89 - 27	高 工
準決勝	90 - 72	農 二
決 勝	80 - 89	高 商 2位
群馬県高等学校新人大会		
2回戦	127 - 10	尾 瀬
3回戦	65 - 37	健大附
4回戦	78 - 55	前 東
準々決	76 - 86	高 商 5位

卓球部

インターハイ県予選		ベスト16
新人団体県予選		ベスト16
高崎市会長杯卓球大会 高校生の部		
浦上竜太郎		優勝
寺島昇吾・時澤拓也		3位

バレーボール部

インターハイ県予選		
4回戦	2 - 1	桐 生
準々決	0 - 2	伊勢崎
		ベスト8
西毛地区大会		
2回戦	2 - 0	農 二
準決勝	0 - 2	高 北 3位
新人大会		
2回戦	2 - 0	沼 田
3回戦	2 - 0	渋 川
準々決	2 - 1	桐 商
準決勝	0 - 2	伊勢崎 3位
全国選抜県予選		
4回戦	2 - 1	高 北
準々決	2 - 1	高 工
準決勝	0 - 2	明和県央

ソフトテニス部

関東大会		
個人	折田・樋口組	3回戦
	須藤・佐藤組	1回戦
インターハイ県予選		
個人	小堺・樋口組	優勝
	須藤・佐藤組	8位
団体	2回戦 3 - 0	桐 工
	3回戦 2 - 1	市伊勢崎
	4回戦 2 - 1	沼 田
準決勝	0 - 2	農 二 3位
インターハイ		
個人	小堺・樋口組	2回戦
1年生大会		
個人	大野・茂木組	ベスト16
新人大会		
個人	小堺・樋口組	ベスト16
	須藤・喜古組	ベスト16
	折田・剣持組	ベスト16
団体	2回戦 3 - 0	西邑楽
	3回戦 2 - 0	利根商
	4回戦 0 - 2	前 橋
		ベスト8
全国選抜県予選		
団体	1回戦 3 - 0	太 工
	2回戦 2 - 1	高 北
決勝リーグ	2 - 1	前 商
	3 - 0	前 橋
	2 - 1	沼 田
		優勝

関東選抜大会		
団体	1回戦 1 - 2	真岡(栃木)
ハイスクールジャパンカップ県予選		
	小堺・樋口組	2位
	折田・剣持組	ベスト8

柔道部

関東大会		
団体		出場 2名
インターハイ県予選		
個人	81kg級 池田貴紀	優勝
		(インターハイ出場)
	81kg級 狩野竜郎	3位
県新人大会		
団体		優勝
全国高校選手権大会県予選		
個人	三年の部 池田貴紀	(無差別) 優勝
	一年の部 下平湊成	73kg級 3位
	高橋亮祐	73kg級 3位

サッカー部

インターハイ県予選		
2回戦	5 - 0	桐 南
3回戦	0 - 1	沼 田
		ベスト32
選手権 決勝トーナメント		
1回戦	3 - 1	前 工
2回戦	1 - 3	桐 一
		ベスト13
県新人リーグ1部		
第1節	0 - 0	常 磐
第2節	2 - 1	伊 商
第3節	1 - 0	館 林
第4節	2 - 1	前 橋
第5節	1 - 0	桐 一
第6節	2 - 1	高経附
第7節	1 - 1	桐 生
新人決勝リーグ		
	0 - 0	前 商
	3 - 2	育 英
	1 - 3	桐 一 3位

水泳部

関東高校県予選		
200m背	小林郁也	5位
新人大会		
100m背	小林郁也	2位
50m背	小林郁也	1位
100m自	高橋直樹	5位
400mメR	小林・西野・塚越・高橋	1位
200m R	西野・小林・高橋・大河原	3位
400m R	大河原・西野・高橋・塚越	3位

ラグビー部

一年生大会 合同チームの部		
(高崎、伊勢崎、高工、渋川の合同チームで参加)		
	17 - 12	(関学・桐工・太田)
	7 - 21	(樹徳・伊勢崎興陽)
	12 - 7	(前橋・前東・前工) 2位
第87回全国高校大会県予選		
準々決	17 - 19	樹 徳
		ベスト8
新人大会 合同チームの部		
予選リーグ・・・ブロック第1位		
	高崎・高工 67 - 5	前工・育英
	高崎・高工 65 - 0	前橋・渋川・富岡
決勝	高崎・高工 36 - 5	前東・伊勢崎興陽
		優勝(関東大会出場)
7人制大会		
1回戦	12 - 24	農 二
関東地区高校15人制合同チーム大会		
予選トーナメント		
群馬県(高崎・高工)	10 - 0	茨城県
群馬県(高崎・高工)	12 - 19	埼玉県
		ブロック 2位
2位対抗戦(第3位決定戦)		
群馬県(高崎・高工)	28 - 0	山梨県
		3位
※ジャパンセブンズ2008 高校の部 関東選抜		
に2名(佐藤聡太、加藤耀穂)が選出される。		
ジャパンセブンズ2008 高校の部		
予選リーグ・・・プール第3位		
関東選抜	19 - 22	近畿選抜
関東選抜	17 - 40	九州選抜
決勝リーグ(3位リーグ)		
関東選抜	39 - 0	北信越選抜
関東選抜	26 - 24	四国選抜
		3位リーグで優勝

剣道部

全国高校総体県予選
 2回戦 3-1 県 央
 3回戦 1-2 前 橋
 学校対抗大会
 1回戦 1-3 県 央
 新人大会
 1回戦 4-0 太 田
 2回戦 1-2 常 磐

テニス部

インターハイ県予選
 団体 1回戦 0-3 太 田
 新人戦
 団体 2回戦 3-2 前 西
 3回戦 1-3 中央中等
 ベスト16

硬式野球部

全国高校野球選手権大会県予選
 2回戦 6-3 孺 恋
 3回戦 1-3 藤 工
 秋季関東大会県予選
 2回戦 9-2 安中総合
 3回戦 12-4 大 泉
 4回戦 1-8 中 央 ベスト16

空手道部

インターハイ県予選
 個人形 小池 樹 ブロック3位
 個人組手 金井良介 1回戦敗退
 高瀬雄斗 1回戦敗退
 佐藤義広 2回戦敗退
 松本康平 3回戦敗退
 団体組手 1回戦 4-1 館 林
 2回戦 4-1 下仁田
 3回戦 0-5 商大附
 ベスト8

1・2年生大会

個人形 小池 樹 4位
 個人組手 高瀬雄斗 2回戦敗退
 松本康平 2回戦敗退
 矢島知樹 3回戦敗退
 佐藤義広 4回戦敗退

新人大会

個人形 小池 樹 本戦1回戦敗退
 ベスト16
 個人組手 金井良介 1回戦敗退
 高瀬雄斗 1回戦敗退
 佐藤義広 2回戦敗退
 松本康平 3回戦敗退
 団体組手 1回戦 4-1 館 林
 2回戦 3-1 沼 田
 3回戦 1-4 商大附
 ベスト4 (3位)

バドミントン部

インターハイ県予選
 2回戦 3-0 伊 工
 3回戦 0-3 西邑楽
 県高校生大会
 シングルス 根岸 ベスト16
 品田 ベスト32
 笠原 ベスト32
 新人戦
 団体 2回戦 1-3 桐 工

弓道部

西毛地区大会
 個人 元村俊樹 5位

軟式野球部

全国高校軟式野球大会予選
 1回戦 0-1 桐 生
 新人大会
 1回戦 11-4 館 林
 準々決 1-8 農 二

第43回高校総体
 成績一覧(平成20年)
 総合順位 10位

陸上競技部

100m 小林 幹 決勝6位
 5000m 関口頌悟 決勝4位
 3000mSC 関 祐輔 決勝5位
 ハンマー投 鈴木良太 決勝5位
 やり投 黒澤太郎 決勝5位
 八種競技 黒澤太郎 決勝2位
 (上記延べ6種目が関東大会に出場)
 総合10位

バスケットボール部

1回戦 75-49 桐 一
 2回戦 112-42 勢多農
 3回戦 108-78 前 西
 準々決 103-104 樹 徳 5位

卓球部

団体 1回戦 3-0 中央中等
 2回戦 3-0 万 場
 3回戦 0-3 伊 商 ベスト16
 個人 シングルス
 中里見達也 ベスト64

バレーボール部

4回戦 1-2 桐 生

ソフトテニス部

団体 1回戦 3-0 育 英
 2回戦 1-2 太 田 ベスト16
 個人 小堺・樋口組 優勝
 斉藤・佐藤組 5位
 折田・剣持組 9位
 (以上関東大会へ)

柔道部

団体 3位
 個人 池田貴紀 優勝
 (いずれも関東大会出場)

サッカー部

2回戦 10-0 館商工
 3回戦 3-0 農 二
 4回戦 1-5 桐 一 ベスト16

ラグビー部

少人数制の部
 予選リーグ・・・ブロック第1位
 27-0 高 工
 53-0 渋 工
 48-0 合 同
 (渋川・富岡・育英)
 決勝トーナメント
 準決勝 33-12 興 陽
 決 勝 46-0 関学附 優勝

剣道部

1回戦 3-0 青 翠
 2回戦 1-2 商大附

テニス部

団体 1回戦 3-0 桐 西
 2回戦 2-0 藤岡中央
 3回戦 1-2 太 商 ベスト16

硬式野球部

春季関東大会県予選
 2回戦 12-3 藤 北
 3回戦 0-5 桐 一

空手道部

個人形 小池 樹 ベスト16
 団体形 1回戦 7-0 高 東(棄権)
 2回戦 0-7 高経附
 個人組手 矢島知樹 2回戦敗退
 佐藤義広 2回戦敗退
 田中郁也 1回戦勝利
 高瀬雄斗 3回戦敗退
 団体組手 1回戦 シード
 2回戦 3-2 桐 南
 3回戦 2-3 高 工
 ベスト8

バドミントン部

個人
 シングルス
 根岸 ベスト64
 ダブルス
 高橋・鈴木組 ベスト64
 清水・品田組 ベスト64
 高田・新井組 ベスト64
 井田(裕)・黒森組 ベスト64
 根岸・松島組 ベスト32
 団体 2回戦 0-2 新 島

山岳部

4位

軟式野球部

1回戦 0-7 前 商

翠巒体育会役員名簿

(平成 20. 6. 26)

役職	氏名	期	運動部名	電話
会長	高橋浩生	78	バレーボール	
副会長	笠井秀昭	56	剣道	
〃	志田登	82	柔道	
〃	谷一行	70	陸上	
〃	内田美樹	77	ラグビー	
〃	田口患一	74	ソフトテニス	
〃	秋山賢治	74	応援	
〃	清野哲雄	74	サッカー	
〃	清水正郎	75	野球	
〃	北村真行	85	硬式テニス	
〃	松本基志	77	山岳	
〃(情報部長)	堤康高	71	卓球	
〃(編集局長)	橋爪良真	75	バスケット	
〃(会計)	永尾俊弘	70	水泳	
会計	吉井章一	78	山岳	
監査	川手義昭	62	野球	
〃	後藤次一	68	陸上	
〃	阿久澤茂	69	サッカー	
顧問	國峯善次郎	50	サッカー	
〃	岩田武雄	53	バスケット	
〃	山口正敏	58	卓球	
事務局 局長	鳥居吉二	73	柔道	
事務局(理事)	岩丸高明	82	バレーボール	
〃(理事)	富田和弘	85	応援	
事務局 理事	茂原賢一	89	陸上	
〃	坂本弘一	87	バレーボール	
〃	長谷川裕二	93	〃	
〃	小池政英	77	剣道	
〃	浦野孝一	77	〃	
〃	滝野修司	86	〃	
〃	関口茂樹	63	柔道	
〃	庭田登志夫	68	〃	
〃	寺沢保夫	83	〃	
〃	坂本正樹	71	陸上	
〃	木村隆一	74	〃	
〃	福島早人	77	ラグビー	
〃	飯島雅年	78	〃	
〃	黒石康暢	81	〃	
〃	新谷恭一	54	水泳	
〃	斎藤全賢	75	〃	
〃	白井浩一	89	〃	
〃	深沢昇一	57	卓球	
〃	角倉信久	69	〃	
〃	橋爪洋介	85	〃	
〃	木村芳之	72	ソフトテニス	
〃	石田和久	75	〃	
〃	浦野克彦	78	〃	
〃	鈴木伸生	80	応援	
〃	藤井正弘	81	〃	
〃	國峯賢一	74	サッカー	
〃	清水清志	81	〃	
〃	安藤英彦	86	〃	
〃	小林均	77	野球	
〃	赤沢正喜	84	〃	
〃	清水威	85	〃	
〃	榊原一好	79	バスケット	
〃	佐藤弘一	81	〃	
〃	斎藤英敏	83	硬式テニス	
〃	長谷川泰三	83	〃	
〃	松本潔志	84	〃	
〃	長井友一	74	山岳	
〃	吉井章一	78	〃	
編集委員	岩丸高明	82	バレーボール	
〃	小池政一	77	剣道	
〃	鳥居吉二	73	柔道	
〃	波多野重雄	77	陸上	
〃	川崎洋一	79	ラグビー	
〃	伊藤祐司	75	水泳	
〃	堤康高	71	卓球	

役職	氏名	期	運動部名	電話
編集委員	木村晴彦	87	ソフトテニス	
〃	藤井正弘	81	応援	
〃	清水清志	81	サッカー	
〃	吉井剛	80	野球	
〃	橋爪良真	75	バスケット	
〃	浜名和也	84	硬式テニス	
〃	吉井章一	78	山岳	

学校側顧問	
校長	藤倉新一
副校長	松原真介
教頭	増田芳之
運動部長	長竹潤
バレーボール	塚本泰弘・宮川惇吾
剣道	渡辺正一・萩原弘和
柔道	鳥居吉二・木村高己
陸上	田島正徳・茂原賢三・津久井 俊明
ラグビー	西澤南・大野俊彦・新井 功・中野 憲一
水泳	湯沢博・前田敏明・坂爪 誠
卓球	内田均・小林正好・茂木 豊
ソフトテニス	井坂 奨・柴崎 浩明・川崎 洋一
応援	川崎 洋一・茂原 賢三
サッカー	笠原 恵太・新井 悟・曾根 秀朗
野球	境原 尚樹・關根 秀仁・島田 学・村田 英之
バスケット	長竹 潤・坂本 直之
硬式テニス	岡田 準・中村 健一
山岳	手島 直樹・齊藤 敬一・津久井 俊明
スキー・スケート	村田 英之・手島 直樹
弓道	間々田 功・前田 敏明
空手	上原 弘充・工藤 正宏・矢島 宏三
軟式野球	篠原 浩一・澤田 徳彦・關根 正弘
バドミントン	村田 英之・加藤 俊介・三浦 昭久・宮崎 秀明

OB会長名簿

運動部名	氏名	期	電話
バレーボール	菊地 俊二	52	
剣道	藤木 正行	69	
柔道	関口 茂樹	63	
陸上	谷 一行	70	
ラグビー	内田 美樹	77	
水泳	永尾 俊弘	70	
卓球	橋爪 洋介	85	
ソフトテニス	丸山 博	68	
応援	秋山 賢治	74	
サッカー	清野 哲雄	74	
野球	川手 義昭	62	
バスケット	橋爪 良真	75	
硬式テニス	小池 俊明	80	
山岳	清水 正爾	55	

第27号翠巒体育会報 第2回編集会議(平成20年6月4日・高崎ビューホテル)



◎ [小林・野球・77期] 各部編集委員のご尽力により、翠巒体育第27号が出来上がりました。4月の第1回編集会議の席上、高橋会長より応援部、ラグビー一部の危機的状況が語られました。全国制覇の歴史を持ち、高々OBとして大きな誇りでもあるラグビー部が、単独チームとして新人戦に出場できなかったと聞いたとき、残念というより悲しい思いを強く持ちました。

◎ 応援部の危機もまた、私たち野球部OBにとっては辛い話でした。夏大会の暑さの中、精一杯の応援で選手を励まし続けてくれる姿に、敬意と感謝の気持ちを素直に感じます。今回の第27号は、両部を応援しようという思いを各部OBが共有し作成されました。いつか新入部員を迎えられ、伝統ある両部に再び活気が戻ることを心より願って編集後記とします。